

編 集 に あ た っ て

- 1 本書は、平成 30 年中における土浦市消防業務の概要と、消防力の実態について収録し、消防事情を紹介するとともに、将来の参考に資するため編集した。
- 2 統計、警防救急編は、平成 30 年 12 月 31 日現在、予防編は平成 31 年 3 月 31 日現在、その他は、平成 31 年 4 月 1 日現在とした。
- 3 気象は、消防本部の測定による。

令和元年 6 月

土 浦 市 消 防 本 部

わがまち土浦

土浦市は、東京から常磐線で僅か1時間余り、首都圏60km圏域に位置し、北には万葉集にも歌われた関東平野に屹立する紫峰筑波山を仰ぎ、東にわが国2番目の広さを持つ霞ヶ浦を臨む水郷国定公園の玄関口である。

年間を通して凌ぎやすい気候風土に恵まれ、過去においての災害による大被害は、地形の関係上水害の色が濃く、霞ヶ浦に注ぐ桜川のデルタを中心として発達した人口約14万人の商工業都市である。

朝は藍、昼は緑、そして夕に紫と山肌の色を変える筑波山のごとく、平安末期にその母体が造られたという当市は、時代の変遷とともに江戸時代以降、常に県南の中心的役割を果たし、数えきれないほどの歴史、遺産が今も息づいて語りかけている。

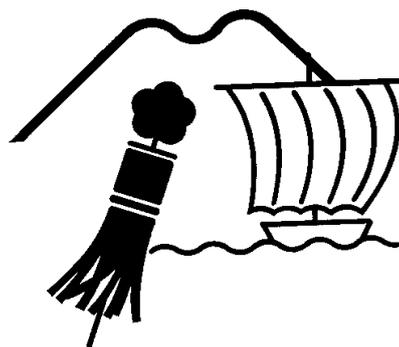
江戸時代、陸前浜街道の宿場があり、土浦藩主土屋氏の城下町として、また霞ヶ浦西岸の地の利を得て農産物の集散地として政治、経済、文化が繁栄した。本市に消防組織といえる火防人足制度が誕生したのもこの時代である。

明治28年には、県北の常磐炭鉱の石炭が京浜工業地帯のエネルギーとして注目をうけ、常磐線（日本鉄道株式会社の海岸線）が敷設され、土浦地方発展に大きな影響をもたらした。

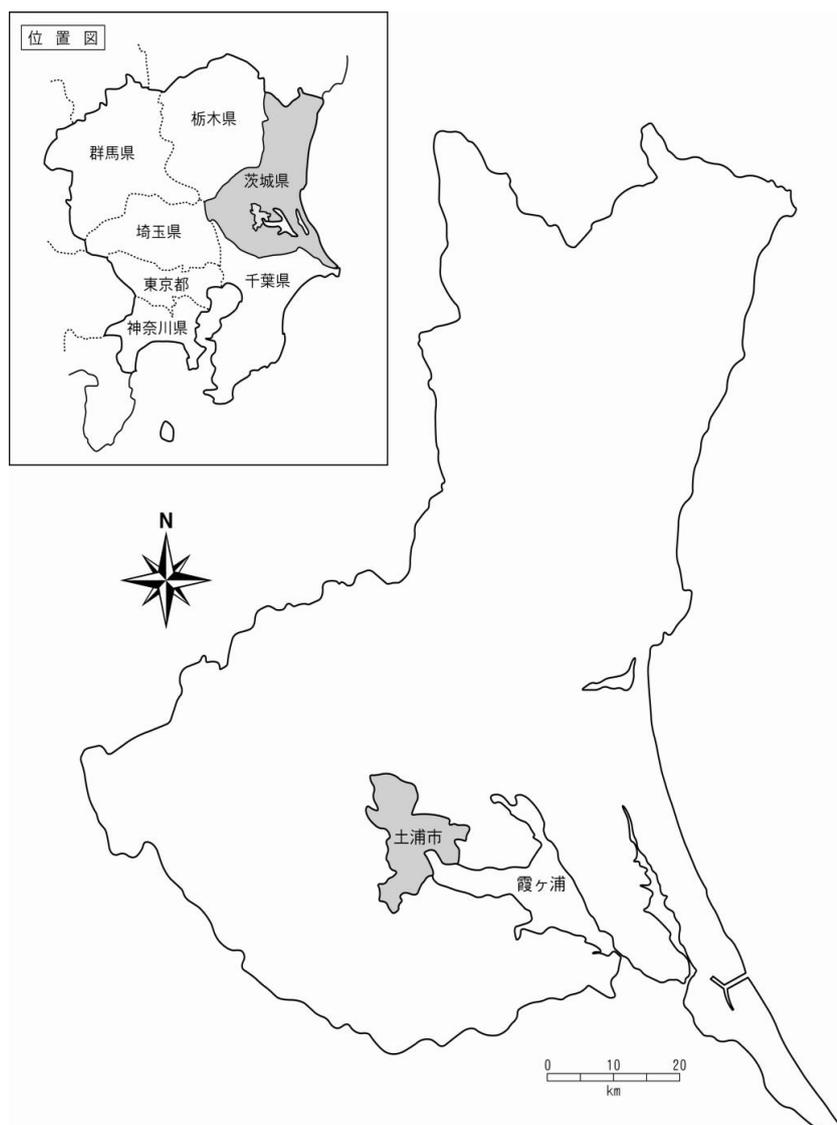
戦時中は、隣接阿見町に7つボタンで有名な霞ヶ浦航空隊（予科練）が置かれ、軍都土浦として全国に名を馳せた。

国・地方を通じる財政の悪化など市町村行政を取り巻く情勢が大きく変化中、行政サービスの維持・向上と行政規模の拡大や効率化を図るという観点から、平成18年2月20日新治村と合併し、「新しい土浦」のまちづくりがスタートした。

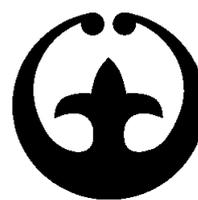
平成30年2月には「第8次土浦市総合計画」を策定し、まちづくりの方向性や将来の姿目標を「水・みどり・人がきらめく 安心のまち 活力のまち 土浦」と定め、誰もが安心・安全で、希望を持って暮らせるまちづくりを推進している。



位置及び地勢



(1) 市章



(説明) 「土」という字を巧みに図案化したもので、霞ヶ浦のさざ波と、桜川にうつる桜の花弁で、優雅な美を描き、外輪の円は平和を意味し、市民の協和と伸びゆく市勢を端的に象徴したものである。

(2) 位置

東経 140° 12′
北緯 36° 04′
海拔 1.8m

(3) 面積

122.89 k m²

人口と世帯数 (霞ヶ浦の面積を含まない113.62 k m²で算出。平成31年4月1日現在)

- ◎ 1世帯当たりの人口 2.3 人
- ◎ 1 k m²当たりの人口 1,220 人
- ◎ 1 k m²当たりの世帯数 525 世帯

区分	年				
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
人口	141,501	140,253	139,709	139,261	138,670
世帯数	59,117	57,437	58,076	58,876	59,634

管内統計一覧

1 市概要

(1)面積	(2)人口	(3)世帯数
122.89km ²	138,670人	59,634世帯

2 消防予算・構成・人員



(1)消防予算
1,804,901千円
(市予算全体の3.4%)



(2)署所
消防本部 1
消防署 4
分署 1



(3)消防職員数
定数 185名
実員 183名



(4)消防団員数
定員 629名
実員 506名

3 機械・施設



(1)ポンプ車
水槽付ポンプ車 5台
ポンプ車 4台



(2)特殊車両等
はしご車 1台
救助工作車 1台
化学車 1台
指揮車 1台



(3)救急車
高規格救急車
6台



(4)消防水利
消火栓 875基
防火水槽 550基
その他 49箇所

4 火災・救急・救助件数



(1)火災
39件
建物 19件 車両 4件
その他 16件
死者 2人 負傷者 17人
損害額 144,961千円



(2)出火原因
放火 5件
コンロ 2件
電気器具等 0件
たばこ・焚火 6件
その他 19件
不明 7件



(3)救急出場
7,364件
搬送人員 6,829人

(5)救助出動
109件
救助人員 61人



(4)救急事故種別
①急病 4,932件
②一般負傷 1,007件
③交通事故 622件
④転院搬送 456件
⑤その他 347件

5 予防



(1)防火対象物数
4,678対象物



(2)危険物施設数
製造所 2施設
貯蔵所 284施設
取扱所 163施設



(3)消防用設備等点検
結果報告状況
1,194件



(4)防火クラブ
幼年消防クラブ 22
少年消防クラブ 17
婦人防火クラブ 3

土浦市消防のあゆみ

慶安3年（1650年）江戸幕府に武家消防組織が編成され、この江戸火消し制度にならって、寛文年間（1661～1672年）に当市の消防組織である火防人足制度が確立された。

これは、イギリスのロンドン消防隊が編成された時期（1666年）に、ほぼ同じくする。

江戸時代		
寛文年間 (1661～1672年)		土浦藩初代藩主土屋数直は、江戸火消し制度に倣い、火防人足制度を確立する。
元禄年間 (1688～1702年)		2代藩主政直が、全町1戸1名18歳以上の男子を若衆と称し、火防人足に組み入れる。
享保20年 (1735年)		12代藩主篤直が、各町内に藩士を配し、持場、役目を明示担当させるとともに城下各所に消防用具を常備させ、火防体制を整える。
天保7年 (1836年)		町内ごとに纏が置かれるようになる。
安政年間 (1854～1859年)		町内火防組の名称が改正される。 本町（い組）横町（ろ組）中城町（は組）西門（に組） 東崎町（と組）田宿町（よ組）田町（た組）仲町（な組） 大町（大組）
明治初期		廃藩置県後、士族が組織した火消組があった。 鷹匠町（青竜）外西町（朱雀）立田町（白虎）築地町（玄武）
明治19年 (1886年)	12月17日	消防組規則（茨城県令甲第39号）により旧組織は廃止、新たに土浦消防組が結成され、初代組頭に鈴木糺が就任する。 副組頭7・小頭31・副小頭54・平組474名の計567名の編成 一番組（本町・川口町・仲町）四番組（横町）七番組（田町） 二番組（中城町・田中町）五番組（田宿町） 三番組（大町）六番組（東崎町）
明治21年 (1888年)	4月1日	土浦町が発足する。
明治27年 (1894年)	2月10日	消防組規則（勅令第15号）に基づく県令第34号により、従来の消防組を改組、土浦消防組となり、各町を単位として6部が編成され、人員300名、後に川口部を加えて7部となる。 組頭 尾形吉兵衛 田宿部長 前原富之助 大町部長 結束弥兵衛 本町部長 大久保藤八 中城部長 藤倉安蔵 田町部長 長谷川直吉 仲町部長 中島久兵衛 川口部長 鈴木蔵之助
明治40年 (1907年)		県令により、消防組人員を346名に増員、小頭24名を配置する。
大正6年 (1917年)	11月	大和町部が新設される。
大正8年 (1919年)	7月15日	中城部が他部に先がけ手引動力ポンプを購入する。
大正9年 (1920年)	9月	横町部が新設される。
大正11年 (1922年)	2月 4月 4月 6月 8月 8月 11月	本町部が手引動力ポンプを購入する。 東崎部が新設される。 仲町部及び東崎部が手引動力ポンプを購入する。 大和町部が手引動力ポンプを購入する。 田中部が新設される。 田中部が手引動力ポンプを購入する。 川口部が手引動力ポンプを購入する。
大正15年 (1926年)	4月	田宿部が初めてポンプ自動車を購入する。

昭和6年 (1931年)		消防機械化状況 ポンプ自動車(田宿町・中城町・大町), 手引動力ポンプ(東崎町・横町・仲町・川口町・大和町・本町・田町・田中町)
昭和12年 (1937年)	4月 1日	土浦町へ中家村が編入する。
昭和13年 (1938年)	6月 1日	土浦町へ藤沢村の一部虫掛が編入, 消防組の構成は20部となる。
昭和14年 (1939年)	1月25日 6月 1日	警防団令(勅令第20号)により消防組が廃止, 警防団が組織され, 防空の任務も付加された。7箇分団編成で, のち中家地区を2分し, 8箇分団となる。 初代団長 内田清助, 副団長 菊田七平 歴代組頭 (初) 鈴木 紘 (6) 長塚 忠 (11) 内田 清助 (2) 尾形 吉兵衛 (7) 大和田 盛雄 (12) 大浦 福次郎 (3) 五頭 庄三郎 (8) 竹中 広次郎 (13) 豊島 庄十郎 (4) 岡本 儀兵衛 (9) 坂野 五兵衛 (14) 塚原 格之助 (5) 奥井 久助 (10) 笹部 重道 土浦町へ東村が編入する。
昭和15年 (1940年)	11月 3日	土浦町と真鍋町が対等合併, 市制施行(人口35,567人)する。
昭和22年 (1947年)	6月25日	消防団令(勅令第185号)により従来の警防団を消防団に改称する。 8箇分団編成, 定数1,260名, 消防団長に多田清一就任
昭和23年 (1948年)	3月 7日 9月 1日	消防組織法が施行, 消防団が警察より分離, 自治体消防として発足する。 初代団長に細野勝久就任 都和村及び朝日村の一部荒川沖等が編入, 消防団を再編する。 10箇分団・ポンプ自動車9台・手引動力ポンプ13台・腕用ポンプ30台・団員1,480名
昭和25年 (1950年)	4月 1日	消防団組織に常備消防部(前川町377番地)を創設する。 水槽付消防ポンプ自動車1台 市 長 天谷丑之助 消防団長 細野勝久 常備消防部長 鈴木銀四郎 班長2名, 部員12名
昭和26年 (1951年)	1月 8日	部員定数12名を14名に改定する。
昭和28年 (1953年)	1月 4日 4月 1日	常備消防部に消防ポンプ自動車を配置する。 部員定数14名を16名に改定する。
昭和29年 (1954年)	11月 3日	上大津村が編入, 消防団を12箇分団に再編する。
昭和30年 (1955年)	4月 1日 4月 7日 12月 1日	消防本部及び消防署が発足する。 消防吏員定数21名(実員20名)事務吏員定数1名(実員1名) 水槽付消防ポンプ自動車1台・消防ポンプ自動車1台 市 長 天谷丑之助 消防長 細野勝久(初代) 次長兼署長 鈴木銀四郎 消防団長 細野勝久(兼任) 消防吏員1名を採用する。 消防長が専任となり, 消防団長に色川恵一就任する。(2代)
昭和31年 (1956年)	4月 10月 1日 11月 9日 12月 8日	消防力強化5ヶ年計画を樹立する。 消防団組織を大幅に改編する。 12箇分団67部を15箇分団25部に改め, 定数1,479名を434名に減員。老朽ポンプ自動車(本町・田町), 手引動力ポンプ(敷島町・仲町・東崎町・横町)及び腕用ポンプ36台(全部)を廃止する。 消防無線局を開局する。(基地局1・移動局2) 水槽付消防ポンプ自動車を土浦市消防署へ配置する。

昭和32年 (1957年)	3月 4月 1日 4月 10月17日 11月28日	手引動力ポンプを第13分団第2部（粟野町）へ配置する。 土浦市消防協会が発足する。 手引動力ポンプを第14分団第2部（手野町）へ配置する。 消防ポンプ自動車を第13分団第1部（並木町）へ配置する。 消防団員定数434名を445名に改定する。 水槽付消防ポンプ自動車を第15分団（神立町）へ配置する。
昭和33年 (1958年)	4月 1日 5月12日 8月 1日	消防吏員定数を27名に改定，消防吏員6名を採用する。 消防ポンプ自動車を第10分団（右靱町）へ配置する。 消防吏員1名を採用する。
昭和34年 (1959年)	1月29日 8月10日 10月 1日 12月10日	消防団員定数を445名から492名に改定する。 土浦地方危険物安全協会が発足する。 南出張所を開設，水槽付消防ポンプ自動車，職員4名を配置する。 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車が寄贈され，土浦市消防署へ配置する。
昭和35年 (1960年)	6月 1日 6月 1日	消防吏員定数を27名から37名に改定する。 消防吏員10名を採用する。 消防団組織を15箇分団23部に改編する。 中城町，佐野子町，飯田町，矢作町の各部を廃止，第7分団第1部（虫掛町）へ消防ポンプ自動車を配置，第6分団第3部（真鍋町）を第5分団とし，消防ポンプ自動車を更新配置する。
昭和36年 (1961年)	4月 1日 5月 1日 8月10日 9月 7日 11月30日	救急業務を開始する。 消防吏員1名を採用する。 消防吏員3名を採用する。 救急自動車を土浦市消防署へ新規配置する。 消防ポンプ自動車を第2分団（川口町）へ更新配置する。 消防吏員定数を37名から39名に改定する。
昭和37年 (1962年)	3月 1日 6月23日 11月29日 12月 1日	消防吏員1名を採用する。 三輪ポンプ自動車を第8分団第3部（上高津町）へ配置する。 消防吏員1名を採用する。 消防吏員定数を39名から45名に改定する。 消防吏員3名を採用する。
昭和38年 (1963年)	2月22日 4月 1日 4月 1日 10月19日 12月 1日	消防吏員4名を採用する。 消防吏員定数を45名から47名に改定する。 消防長の階級「消防監補」を「消防監」に改正する。 初の公設消火栓を設置する。（102基） 消防ポンプ自動車を第9分団（小松町）へ配置する。 消防ポンプ自動車を第8分団第1部（下高津町）へ配置する。 三輪ポンプ自動車を第11分団第2部（西根町）へ配置する。 水槽付消防ポンプ自動車を土浦市消防署へ新規配置，旧車両を南出張所へ配置替する。 消防吏員1名を採用する。
昭和39年 (1964年)	3月25日 4月 1日 7月 1日 12月25日	消防団員定数を492名から418名に改定する。 消防長に色川恵一就任する。（2代） 消火栓98基増設する。（計200基） 消防吏員1名を採用する。 消防団員定数を418名から390名に改定する。
昭和40年 (1965年)	2月 8日 4月 1日 7月 5日	消防ポンプ自動車を土浦市消防署へ新規配置する。 県内初の公設火災報知器を設置する。（発信機100・受信機2） 消防団長に青木利之就任する。（3代） 消防庁舎建設に着工する。

<p>昭和41年 (1966年)</p>	<p>2月 7日 3月 4月 1日 4月 1日 4月 5日 5月 6月 7月 6日 8月 10月 10月 12月</p>	<p>新庁舎に移転，19日竣工式を挙げる。 消火栓8基を増設する。(真鍋町地内) 消防吏員定数を47名から51名に改定する。 消防組織法の改正に伴い，消防本部機構を改組する。 総務課(庶務係・経理係・機械係)，警防課(予防係・消防係・救急係)を新設 消防吏員7名を採用，専任次長制を実施する。 消防本部連絡用乗用車(プリンスグローリア64)を配置する。 消火栓6基を増設する。(田中町) 消防吏員定数を51名から67名に改定する。 荒川沖西区に消防団第18分団を新設，消防ポンプ自動車配置する。 国補事業により防火水槽(40t)3基を増設する。(桜ヶ丘・若松町・荒川沖) 消火栓3基を増設する。(上高津町) 消防ポンプ自動車を第8分団へ更新配置する。 消防ポンプ自動車を第14分団第2部(沖宿町)へ新規配置する。</p>
<p>昭和42年 (1967年)</p>	<p>1月23日 2月 4月 1日 5月 9月 10月 12月</p>	<p>屈折梯子車を土浦市消防署へ新規配置する。 消火栓6基を増設する。(右叡町・竹ノ入町) 消防吏員10名を採用する。 消火栓1基を増設する。(神立町) 消火栓2基を増設する。(大岩田町) 防火水槽(60t・観察池兼用)を上大津東小学校に設置する。 消火栓5基を増設する。(中村1区・永国町) 消防ポンプ自動車を第15分団(神立町)へ配置する。 消防ポンプ自動車を第6分団(真鍋町)へ配置する。</p>
<p>昭和43年 (1968年)</p>	<p>2月16日 4月 1日 5月 1日 5月 1日 9月 11月 12月 3日</p>	<p>消防吏員3名を採用する。 消防吏員5名を採用する。 消防長に鈴木銀四郎就任する。(3代) 消防吏員1名を採用する。 消火栓4基を増設する。(大町外) 消火栓6基を増設する。(板谷町外) 土浦地方消防相互応援協定並びに救急業務委託に関する協定を締結する。(土浦市・阿見町・新治村・出島村) 消防ポンプ自動車(A2級)を第5分団及び第10分団へ更新配置する。 救急自動車(ワーゲン)を土浦市消防署へ配置する。 指令車(ジープ)を土浦市消防署へ配置する。 消火栓2基を増設する。(中高津町外) 県費補助により防火水槽(40t)5基を増設する。(荒川沖町外)</p>
<p>昭和44年 (1969年)</p>	<p>3月28日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 6月 2日 7月 1日</p>	<p>土浦地方消防相互応援協定並びに救急業務委託に関する協定を締結する。(土浦市・牛久町・桜村・千代田町) 定数条例を全面改正し，消防職員定数を73名とする。 消防吏員4名を採用する。 消防団長に青木利之再任される。 消防吏員5名を採用する。 消防本部機構を改組する。 予防課を新設，総務課(庶務係・経理係) 予防課(予防係・危険物係) 警防課(消防係・救急係・機械装備係)にする。 消火栓8基を増設する。(川口町4基，小岩田町2基，神立町2基)</p>

<p>昭和45年 (1970年)</p>	<p>1月 8日 2月 2月 3月26日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 12月26日</p>	<p>消防ポンプ自動車（A2級）を第1分団及び第3分団へ更新配置する。 公設火災報知機12基を増設する。 県費補助により防火水槽（40 t）3基を増設する。（手野町・栗野町・荒川沖町） 消防団を改編，18箇分団390名を22箇分団351名に減員する。 消防職員定数を73名から76名に改定する。 消防長に宇ッ木三郎就任する。（4代） 消防吏員6名を採用する。 消防ポンプ自動車（A2級）を第4分団及び第15分団へ更新配置，旧車両を第6分団及び第14分団へ配置替する。</p>
<p>昭和46年 (1971年)</p>	<p>3月15日 3月19日 3月30日 4月 1日 4月 1日 9月25日 11月11日 12月16日</p>	<p>防火水槽（40 t）3基を増設する。（手野町外） 公設火災報知機10基を増設する。（真鍋町外） 消火栓18基を増設する。 消防職員定数を76名から78名に改定する。 消防吏員3名を採用する。 消防団員定数を351名から342名に改定する。 はしご付消防ポンプ自動車（30m級）を土浦市消防署へ新規配置する。 消防ポンプ自動車（A2級）を第17分団へ更新配置する。</p>
<p>昭和47年 (1972年)</p>	<p>1月17日 1月24日 2月 1日 2月14日 2月16日 2月17日 2月28日 3月31日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 6月10日 8月15日 8月23日 9月12日 9月28日</p>	<p>消防ポンプ自動車（A2級）を第2分団へ更新配置する。 消防本部庁舎増築工事を竣工する。 防火水槽（40 t）1基を増設する。（天川町） 消火栓14基を増設する。（川口町外） 関彰商事（株）から寄贈された救急自動車（A型）を土浦市消防署へ配置する。 第6分団車庫を新築する。 防火水槽（40 t）1基を増設する。（神立町） 救急波専用消防無線電話（10W）を設置する。 （F3：144.44MHz 147.44MHz） 消防職員定数を78名から93名に改定する。 第5分団を廃止し，22箇分団から21箇分団に，団員定数を347名から327名に改定する。第6・7分団を第5・6分団とする。 消防吏員15名を採用する。 第24分団車庫を改築する。 第16分団車庫を増築する。 消防ポンプ自動車（A2級）を第16分団及び第26分団へ更新配置する。 消火栓5基を増設する。（中村町外） 防火水槽（40 t）1基を増設する。（烏山町） 化学消防ポンプ自動車を土浦市消防署へ新規配置する。</p>
<p>昭和48年 (1973年)</p>	<p>1月10日 1月14日 1月31日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 5月30日 8月18日 10月16日 11月30日 12月 4日 12月21日 12月25日</p>	<p>消火栓2基を増設する。（並木町外） 防火水槽（20 t）1基を増設する。（東崎町） 第26分団車庫を新築する。 消防職員定数を93名から106名に改定する。 消防吏員14名を採用する。 消防団長に宇田川仁就任する。（4代） 第11分団車庫を改築する。 消防ポンプ自動車（A2級）を第6分団及び第27分団へ更新配置する。 消防ポンプ自動車（A2級）を土浦市消防署へ新規配置する。 山之内製薬（株）から寄贈された救急自動車（トヨタ2B型）を土浦市消防署へ新規配置する。 防火水槽（40 t）2基を増設する。（都和町外） 水槽付消防ポンプ自動車（8,000ℓ）を土浦市消防署へ新規配置する。 防火水槽（40 t）2基を増設する。（永国町外）</p>

<p>昭和49年 (1974年)</p>	<p>1月31日 2月 6日 2月12日 3月 1日 3月30日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 7月 1日 7月29日 8月29日 8月30日 9月13日 9月30日 11月23日 11月25日</p>	<p>消火栓6基を増設する。(中貫町外) 防火水槽(40t)1基を増設する。(荒川沖町) 防火水槽(40t)2基を増設する(並木町外) 土浦ロータリークラブから寄贈された消防広報車を土浦市消防署に配置する。 救急指令装置(B型)を通信指令室へ配置する。 消防職員定数を106名から116名に改定する。 消防吏員15名を採用する。 筑南地方広域行政(事)消防本部発足に伴い、桜村との救急業務の委託に関する協定を解除する。 消防本部機構を改組する。 警防課を総務課(庶務係・経理係・施設係)予防課(予防係・危険物係・警防係・通信指令室)に統合、土浦市消防署を土浦消防署に名称を変更、南出張所を廃止して荒川沖消防署を開設、2課2消防署とし、各消防署に5係(庶務・予防・消防・救急・機械)を設置する。 消防ポンプ自動車(BD-I型)を荒川沖消防署へ新規配置する。 消火栓1基を増設する。(右叡町) 消防ポンプ自動車(BD-I型)を第23分団へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(BS-II型)を第21分団へ更新配置する。 防火水槽(40t)4基を増設する。(千束町外) 消火栓4基を増設する。(乙戸町外) 防火水槽(40t)1基を増設する。(虫掛町) 第22分団車庫を改築する。</p>
<p>昭和50年 (1975年)</p>	<p>2月24日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 5月21日 7月25日 8月25日 8月29日 8月29日 9月 1日 10月 1日 11月21日 12月 8日</p>	<p>消火栓4基を増設する。(大手町外) 消防長事務取扱に土浦市長野口敏雄就任する。 消防吏員8名を採用する。 稲敷地方広域市町村圏(事)消防本部発足に伴い、牛久町との救急業務の委託に関する協定を解除する。 消防長に飯島一雄就任する。(5代) 東京火災海上保険(株)から寄贈された救急自動車(トヨタ2B型)を土浦消防署へ更新配置する。 防火水槽(40t)7基を増設する。(永国町外) 消防ポンプ自動車(BD-I型ホースカー付)を土浦消防署へ新規配置する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第13分団へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第28分団へ更新配置する。 第25分団を廃止し、21箇分団から20箇分団に、団員定数を325名から312名に改定する。 消火栓5基を増設する。(真鍋4丁目外) 消防施設整備資金が(株)小網屋から寄付され、査察広報車2台を購入、土浦消防署へ配置する。</p>
<p>昭和51年 (1976年)</p>	<p>3月31日 7月15日 7月26日 8月 5日 9月30日 11月 1日 12月20日</p>	<p>神立消防署庁舎建設用地(2,912.07㎡)を神立町に購入する。 2ヶ年継続事業として、公設火災報知機の廃止が決定、本年度架線を撤去する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第12分団へ更新配置する。 消火栓5基を増設する。(常名町外) 第12分団車庫を増改築する。 消防長に小泉忠就任する。(6代) 防火水槽(40t)7基を増設する。(木田余町外)</p>

昭和52年 (1977年)	4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 8月29日 9月 2日 9月 6日 9月27日 10月20日	消防職員定数を116名から118名に改定する。 消防吏員10名を採用する。(実員116名) 消防団長に宇田川仁再任される。 消防本部機構を改組する。 総務課(庶務係・経理係・施設係), 予防課(予防係・危険物係) 警防課(警防係・通信指令室)に改組する。 水槽付消防ポンプ自動車(水-II型)を荒川沖消防署へ新規配置する。 救急自動車(トヨタ2B型)を土浦消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第5分団へ更新配置する。 防火水槽(40t)7基を増設する。(木田余町外) 神立消防署庁舎建設に着工する。
昭和53年 (1978年)	1月 6日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 5月 1日 8月 1日 8月11日 9月 1日 12月15日 12月28日	消火栓6基を増設する。(中貫町外) 消防職員定数を118名から128名に改定する。 消防吏員11名を採用する。(実員126名) 新治広域事務組合消防本部発足に伴い, 出島村・新治村・千代田村 との救急業務の委託に関する協定を解除する。 神立消防署を開設し, 職員21名を配置する。 茨城県救急医療情報コントロールシステム地域情報本部(ディスプ レイ装置)が, 稼働開始される。 水槽付消防ポンプ自動車(水-II型)を土浦消防署へ新規配置する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第22分団に更新配置する。 防火水槽(40t)9基を増設する。(真鍋町外) (財)日本損害保険協会から寄贈された消防ポンプ自動車(BD- I型)を神立消防署へ配置する。
昭和54年 (1979年)	2月 5日 4月 1日 6月 3日 8月22日 11月 6日 12月 4日 12月18日	消火栓6基を増設する。(神立町外) 消防吏員2名を採用する。(実員126名) 第16分団及び第17分団車庫を新築する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第11分団へ更新配置する。 第14分団詰所を新築する。 第3分団車庫を新築する。 防火水槽(40t)10基を増設する。(霞ヶ岡町外)
昭和55年 (1980年)	1月11日 2月26日 4月 1日 7月 1日 10月28日 11月 6日 12月20日 12月20日 12月24日	消火栓8基を増設する。(真鍋町外) 照明救助工作車を土浦消防署へ新規配置する。 消防吏員2名を採用する。(実員127名) 指令車(セドリック)を更新配置する。 消防制度化100周年・市常設消防開設30周年記念行事を開催, 「土浦消防30年のあゆみ」を発刊する。 防火水槽(40t)10基を増設する。(真鍋町外) 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第14分団へ更新配置する。 救急自動車(トヨタ2B型)を荒川沖消防署へ更新配置する。 消火栓13基を増設する。(中村2区外)
昭和56年 (1981年)	3月20日 3月31日 4月 1日 9月19日 9月30日 10月 1日 12月20日 12月26日	第4分団車庫を改築する。 第23分団車庫を新築する。 消防団長に宇田川仁再任される。 防火水槽(40t)10基を増設する。(並木3丁目外) 救急自動車(トヨタ2B型)を神立消防署へ更新配置する。 阿見町消防本部発足に伴い, 阿見町との救急業務の委託に関する協 定を解除する。 消防ポンプ自動車(BS-I型)を第24分団へ更新配置する。 第15分団車庫を新築する。

<p>昭和57年 (1982年)</p>	<p>3月24日 3月30日 3月30日 3月30日 4月 1日 4月 1日 5月 1日 5月30日 9月 1日 9月 1日 9月16日 10月 1日 12月 7日 12月11日</p>	<p>消防職員定数を128名から131名に改定する。 消火栓17基を増設する。(城北町外) 常磐自動車道(柏・千代田石岡インターチェンジ間) 開通に伴い、常磐自動車道消防協議会加入機関(柏市・守谷町・谷和原村・伊奈村・谷田部町・桜村・新治村・千代田村・常総地方広域市町村圏事務組合)と消防相互応援協定を締結する。 土浦市消防協会が解散する。 消防吏員3名を採用する。(実員127名) 消防長に池野辺績就任する。(7代) 並木町婦人消防クラブが発足する。 水防用アルミボート(折たたみ式)1艇を土浦消防署へ新規配置する。 消防吏員3名を採用する。(実員130名) 土浦消防署並木出張所を開設する。 職員8名、救急自動車(2B型)を新規配置、消防ポンプ自動車(A2級)を荒川沖消防署から配置替 連絡車(サニー)を消防本部へ配置する。 ガス漏れ及び爆発事故防止対策に関する協定を締結する。(土浦市消防本部・東部瓦斯(株)・茨城高压ガス保安協会・東京電力(株)) 15m級屈折梯子付消防ポンプ自動車を土浦消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第3分団へ更新配置する。</p>
<p>昭和58年 (1983年)</p>	<p>1月14日 3月 1日 3月31日 4月 1日 4月 1日 10月 1日 11月15日 12月22日</p>	<p>防火水槽(40t)10基を増設する。(真鍋4丁目外) 中村町5区婦人防火クラブが発足する。 消火栓12基を増設する。 消防職員定数を131名から139名に改定する。 消防吏員6名を採用する。(実員130名) 消防吏員6名を採用する。(実員136名) 土浦消防署南分署用水槽付消防ポンプ自動車(水-II型)を新規購入する。 土浦消防署南分署を開設し、職員8名を配置する。</p>
<p>昭和59年 (1984年)</p>	<p>1月 1日 1月26日 1月31日 2月24日 3月20日 3月31日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 8月 8日 9月28日 10月 1日 11月25日 11月30日</p>	<p>筑南地方広域行政事務組合(筑波町・大穂町・豊里町・谷田部町・荃崎町・桜村)と消防相互応援協定を締結する。 防火水槽(40t)10基を増設する。(中高津1丁目外) 広報車(サニー)を土浦消防署南分署へ配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第1分団へ更新配置する。 昭和57年3月30日付締結した常磐自動車道柏・千代田・石岡インターチェンジ間における消防相互応援協定を廃止し、新たに常磐自動車道柏・那珂インターチェンジ間における消防相互応援協定を22市町村と締結する。 消火栓9基を増設する。(大岩田町外) 消防職員定数を139名から145名に改定する。 消防吏員5名を採用する。(実員140名) 消防長の階級を「消防監」から「消防正監」に改正する。 茨城県防災行政無線が配置され、稼働開始する。 (財)日本消防協会から寄贈された緊急給水用ろ過器1基を消防本部へ配置する。 白帆幼稚園幼年消防クラブが発足する。 消防吏員5名を採用する。(実員145名) 防火水槽(40t)10基を増設する。 水槽付消防ポンプ自動車(水-II型)を土浦消防署並木出張所へ更新配置する。</p>

<p>昭和60年 (1985年)</p>	<p>2月26日 3月 4日 3月 5日 3月23日 3月29日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 6月30日 10月 1日 11月 8日</p>	<p>化学消防ポンプ自動車 (IV型) を神立消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車 (BS-I型) を土浦消防署へ更新配置する。 第1分団車庫を新築する。 第2分団車庫を新築する。 消火栓8基を増設する。(並木五丁目外) 消防職員定数を145名から147名に改定する。 消防吏員3名を採用する。(実員146名) 消防本部機構を整備する。 警防課より通信指令室を分離独立, 新たに警防課に救急救助係を設置, 3課1室7係とする。 消防団長に中桐勝太郎就任する。(5代) 査察広報車(サニー)を土浦消防署へ更新配置する。 (財)国際科学技術博覧会協会から水槽付消防ポンプ車(水I-B型)が寄贈され, 神立消防署へ配置する。 防火水槽(40t)9基を増設する。(並木四丁目外)</p>
<p>昭和61年 (1986年)</p>	<p>3月 4日 3月15日 4月 1日 4月 1日 4月30日 5月 2日 5月 8日 11月28日</p>	<p>消火栓7基を増設する。(桜ヶ丘町外) 消防ポンプ自動車(CD-I型)を荒川沖消防署へ更新配置する。 救急自動車(トヨタ2B型)を土浦消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第4分団へ更新配置する。 資材搬送車(3t)を土浦消防署へ新規配置する。 (財)国際科学技術博覧会協会から消防救急指令装置(A型)が寄贈され, 通信指令室へ更新配置する。 水防用アルミボート(折たたみ式)1艇を土浦消防署へ増強配置する。 防火水槽(40t)7基を増設する。(大岩田町外)</p>
<p>昭和62年 (1987年)</p>	<p>3月 9日 3月12日 3月19日 3月29日 3月31日 4月 1日 4月 1日 5月25日 6月26日 8月26日 9月 1日 10月26日 11月12日</p>	<p>消防ポンプ自動車(CD-I型)を第17分団へ更新配置する。 水槽付消防ポンプ自動車(水-II型 8,000l)を土浦消防署へ更新配置する。 携帯用無線機(1W)を土浦消防署及び荒川沖消防署へ更新配置する。 (社)日本損害保険協会から救急普及啓発広報車が寄贈され, 消防本部へ配置する。 消火栓9基を増設する。(荒川沖東二丁目外) 消防吏員3名を採用する。(実員147名) 消防長に幕内章就任する。(8代) 救急情報テレホンサービスを運用開始する。 査察広報車(カローラ)を荒川沖消防署へ更新配置する。 救急心電図無線電送システムを運用開始する。 河川流域総合情報システム運用端末装置を設置する。 携帯用無線機(1W)2基を土浦消防署へ更新配置する。 防火水槽(40t)8基を増設する。(天川一丁目外)</p>
<p>昭和63年 (1988年)</p>	<p>2月15日 3月15日 3月31日 6月17日 8月31日 10月 5日 10月31日</p>	<p>消防ポンプ自動車(CD-I型)を第2分団及び第16分団へ更新配置する。 救急自動車(トヨタ2B型)を荒川沖消防署へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(下高津二丁目外) 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第26分団へ更新配置する。 消火栓6基を増設する。(城北町外) はしご付消防ポンプ自動車(35m級)を土浦消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を神立消防署へ更新配置する。</p>

平成元年 (1989年)	2月28日 2月28日 3月31日 3月31日 3月31日 4月 1日 4月 2日 6月22日 8月 9日 12月21日	防火水槽 (40 t) 10基を増設する。(永国町外) 救急自動車 (トヨタ2B型) を神立消防署へ更新配置する。 土浦市防災行政無線を運用開始する。 茨城県広域消防相互応援協定を締結する。 救急波無線基地局を更新する。 消防団長に高木彬就任する。(6代) 救急自動車 (トヨタ2B型) を土浦消防署並木出張所へ更新配置する。 査察広報車 (サニー) を神立消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第6分団, 第23分団及び第27分団へ更新配置する。 水槽付消防ポンプ自動車 (水-II型) を荒川沖消防署へ更新配置する。
平成2年 (1990年)	3月28日 3月29日 3月31日 3月31日 4月 1日 4月 1日 5月30日 9月24日 10月 5日 11月 9日 12月14日 12月20日	防火水槽 (40 t) 7基を増設する。(並木四丁目外) 消火栓10基を増設する。(神立中央一丁目外) 救急自動車 (トヨタ2B型) を土浦消防署並木出張所へ更新配置する。 携帯用無線機 (1W) 2基を神立消防署へ更新配置する。 消防職員定数を147名から151名に改定する。 消防吏員2名を採用する。(実員149名) 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第13分団及び第21分団へ更新配置する。 携帯用無線機 (1W) 2基を土浦消防署へ更新配置する。 老人緊急通報システムを運用開始する。 市制施行50周年・常設消防発足40周年記念行事を開催する。 「消防のあゆみ」を発刊する。 水槽付消防ポンプ自動車 (水-II型) を土浦消防署へ更新配置する。 救急自動車 (トヨタ2B型) を土浦消防署南分署へ更新配置する。
平成3年 (1991年)	3月15日 3月20日 3月30日 3月31日 4月 1日 8月15日 10月17日	防火水槽 (40 t) 5基を増設する。(手野町外) 消火栓10基を増設する。(木田余町外) 気象観測 (風向・風速) 装置を通信指令室へ更新配置する。 第21分団車庫を新築する。 消防吏員2名を採用する。(実員151名) 救急救命士法 (平成3年法律第36号) が施行される。 携帯用無線機 (1W) 2基を土浦消防署へ更新配置する。
平成4年 (1992年)	1月18日 2月14日 3月 9日 3月10日 3月31日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 5月18日 6月11日 7月30日 11月19日 11月20日 11月20日 12月 1日 12月22日	防火水槽 (40 t) 5基を増設する。(東真鍋町外) 指令車 (クラウン) を消防本部へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(東中貫町外) 第12分団及び第22分団車庫を新築する。 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第12分団及び第28分団へ更新配置する。 消防吏員2名を採用する。(実員152名) 特別救助隊専任隊を設置する。 消防本部機構を整備する。 警防課に消防団係を新設, 警防課から救急救助係が分離独立, 救急救助課 (救急係・救助係) を新設, 4課1室9係とする。 消防署に救助係を新設し, 6係とする。 連絡車 (サニー) を消防本部へ更新配置する。 並木出張所 (696.28㎡) が敷地移管により敷地面積1,447㎡となる 土浦市防火管理協会が発足する。 救急救命士が誕生する。 高規格救急自動車 (トヨタ) を土浦消防署へ新規配置する。 自動車電話を土浦消防署及び神立消防署の救急自動車へ設置, 運用開始する。 高度救急業務を開始する。 救助工作車 (II型) を土浦消防署へ新規配置する。

<p>平成5年 (1993年)</p>	<p>3月10日 3月11日 3月12日 3月16日 3月19日 4月 1日 4月 1日 7月 8日 8月 8日 10月 8日 10月28日 11月29日</p>	<p>携帯用無線機 (1W) 2基を土浦消防署へ更新配置する。 防火水槽 (40 t) 5基を増設する。(下高津二丁目外) 第27分団車庫を新築する。 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第5分団へ更新配置する。 消火栓5基を増設する。(中高津二丁目外) 消防吏員4名を採用する。(実員155名) 消防団長に松本好祐就任する。(7代) 小型消防艇「かすみ」を土浦消防署へ新規配置する。 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第22分団へ更新配置する。 携帯用無線機 (1W) 2基を土浦消防署及び並木出張所へ更新配置する。 自動車電話を南分署, 並木出張所及び荒川沖消防署の救急自動車へ設置, 運用開始する。 消防無線基地局に全国波を導入, 運用開始する。</p>
<p>平成6年 (1994年)</p>	<p>3月23日 3月24日 3月25日 4月 1日 6月 1日</p>	<p>水槽付消防ポンプ自動車 (水-II型) を土浦消防署南分署へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(白鳥町外) 防火水槽 (40 t) 5基を増設する。(木田余外) 第5分団車庫を新築する。 消防吏員1名を採用する。(実員155名) 土浦市幼少年婦人防火委員会が発足する。</p>
<p>平成7年 (1995年)</p>	<p>2月 3日 2月14日 2月20日 2月20日 3月15日 3月15日 3月15日 4月 1日 9月 5日 10月24日 10月24日 10月24日 12月12日</p>	<p>消火栓10基を増設する。(沖宿町外) 高規格救急自動車 (トヨタ) を荒川沖消防署へ新規配置する。 車載型無線機 (10W) 7基を土浦消防署, 神立消防署及び並木出張所へ更新配置する。 携帯用無線機 (10W) 7基を通信指令室及び南分署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第11分団へ更新配置する。 防火水槽 (40 t) 5基を増設する。(手野町外) 第26分団車庫を新築する。 消防長に成嶋耀就任する。(9代) 緊急消防援助隊に登録される。(救急部隊) 車載型無線機 (10W) 4基を土浦消防署, 荒川沖消防署及び神立消防署へ更新配置する。 可搬型無線機 (10W) 1基を通信指令室へ更新配置する。 携帯用無線機 (1W) 2基を通信指令室及び荒川沖消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車 (CD-I型) を第14分団へ更新配置する。</p>
<p>平成8年 (1996年)</p>	<p>2月 2日 2月13日 2月15日 2月22日 3月15日 4月 1日 5月22日 8月 7日 9月 4日 11月28日 11月28日 11月28日 12月20日 12月25日</p>	<p>消防ポンプ自動車 (CD-I型) を土浦消防署へ更新配置する。 第28分団車庫を新築する。 高規格救急自動車 (トヨタ) を神立消防署へ新規配置する。 消火栓10基を増設する。(笠師町外) 防火水槽 (40 t) 5基を増設する。(荒川沖南区外) 消防吏員3名を採用する。(実員155名) 連絡車 (ニッサンADバン) を消防本部へ更新配置する。 可搬式小型消防ポンプ (トーハツV20CS) 1台を土浦消防署へ新規配置する。 携帯電話 (震災対策用) 7台を新規購入する。 車載型無線機 (10W) 2基を土浦消防署及び神立消防署へ更新配置する。 可搬型無線機 (10W) 3基を通信指令室, 荒川沖消防署及び神立消防署へ更新配置する。 携帯用無線機 (1W) 2基を通信指令室及び土浦消防署へ更新配置する。 震災対策用資器材 (エンジンカッター, パール等) を各消防署所及び各分団へ新規配置する。 震災対応型査察広報車 (イスズRV) を土浦消防署へ新規配置する。</p>

平成9年 (1997年)	2月20日	震災対応型高規格救急自動車（トヨタ4WD）を南分署へ新規配置する。
	3月10日	消防ポンプ自動車（CD-I型）を第24分団へ更新配置する。
	3月18日	消火栓10基を増設する。（白鳥町外）
	3月27日	削岩機（マルゼンMM-78）1機を神立消防署へ新規配置する。
	3月28日	防火水槽（40t）5基を増設する。（立田町外）
	4月1日	消防吏員3名を採用する。（実員156名）
	4月1日	消防団長に松本好祐再任される。
	6月30日	消防職員定数を151名から156名に改定する。
	7月28日	車載型無線機（10W）1基を神立消防署へ更新配置し、携帯用無線機（1W）2基を土浦消防署及び神立消防署へ更新配置する。
	12月22日	水槽付消防ポンプ自動車（水-II型）を神立消防署へ更新配置する。
平成10年 (1998年)	3月24日	高規格救急自動車（トヨタ）を並木出張所へ新規配置する。
	3月25日	防火水槽（40t）4基を増設する。（荒川沖南区外）
		消火栓15基を増設する。（菅谷町外）
	4月1日	消防吏員2名を採用する。（実員156名）
	4月1日	消防本部機構を整備する。 総務課の経理係と施設係を統合し財務係、救急救助課の救急係と救助係を統合し救急救助係とする。 消防署の救急係と救助係を統合し救急救助係を設置、5係とする。
10月26日	携帯用無線機（1W）2基を土浦消防署及び神立消防署へ更新配置する。	
10月26日	震災対策用資器材（可搬式小型消防ポンプ、チェーンソー、発電機、ガス検知器等）を各消防署所及び各分団へ新規配置する。	
平成11年 (1999年)	1月13日	防火水槽（40t）5基を増設する。（並木五丁目外）
	2月8日	消防ポンプ自動車（CD-I型）を第3分団へ更新配置する。
	2月28日	水槽付消防ポンプ自動車（水-II型）を土浦消防署並木出張所へ更新配置する。
	3月24日	消火栓10基を増設する。（沖宿町外）
	4月1日	消防吏員2名を採用する。（実員156名）
	4月1日	消防長に宮本満雄就任する。（10代）
	11月20日	卓上型消防用基地局（10W）1基を通信指令室へ更新配置、携帯用無線機（1W）2基を土浦消防署へ更新配置する。
平成12年 (2000年)	1月19日	高規格救急自動車（トヨタ）を土浦消防署へ更新配置する。
	2月8日	防火水槽（40t）5基を増設する。（大字小山崎外）
	2月9日	消防ポンプ自動車（CD-I型）を第1分団へ更新配置する。
	3月10日	消防ポンプ自動車（CD-I型）を荒川沖消防署へ更新配置する。
	3月10日	第17分団車庫を新築する。
	3月17日	消火栓10基を増設する。（荒川沖南区外）
	4月1日	消防団長に渡邊忠就任する。（8代）
	9月19日	消防ポンプ自動車（CD-I型）を第15分団へ更新配置する。
	12月19日	通信指令室の救急基地局（10W）を更新配置、携帯無線機（1W）1基を土浦消防署へ更新配置する。
平成13年 (2001年)	2月26日	はしご付消防ポンプ自動車（18m級）を土浦消防署へ更新配置する。
	3月15日	風向風速計を荒川沖消防署へ更新配置する。
	3月15日	消火栓10基を増設する。（大字右衞外）
	3月22日	防火水槽（40t）4基を増設する。（大字佐野子外）
	4月1日	消防長に飯田雅男就任する。（11代）
	4月1日	消防吏員2名を採用する。（実員152名）
	5月18日	資材搬送車（三菱）を消防本部へ新規配置する。
	8月27日	査察広報車（三菱）を土浦消防署へ更新配置する。
	12月28日	水難救助用ゴムボート（かすみ2）1艇を土浦消防署へ更新配置する。

平成14年 (2002年)	3月15日 3月26日 3月27日 3月29日 4月 1日 4月 1日 7月 5日 11月 6日 12月 3日	消火栓10基を増設する。(栗野町外) 防火水槽(40t)3基を増設する。(田村町外) 水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型 8,000ℓ)を土浦消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第4分団へ更新配置する。 消防吏員3名を採用する。(実員154名) マイクロバス(三菱)が消防本部へ移管される。 土浦市防火管理協会から寄贈された連絡車(スズキ)を消防本部に配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第17分団へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を神立消防署へ更新配置する。
平成15年 (2003年)	1月30日 3月12日 3月19日 4月 1日 4月 1日 11月19日 12月18日	第23分団車庫を新築する。 消火栓6基を増設する。(神立町外) 防火水槽(40t)2基を増設する。(西根南三丁目外) 消防吏員2名を採用する。(実員155名) (財)日本消防協会から寄贈された指令車(三菱)を土浦消防署に配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第2分団,第16分団へ更新配置する。 防火水槽(40t)2基を増設する。(田中町外)
平成16年 (2004年)	1月15日 3月29日 4月 1日 4月 1日 5月26日	第11分団車庫を新築する。 消火栓7基を増設する。(富士崎一丁目外) 消防吏員4名を採用する。(実員155名) 消防団長に渡邊忠再任される。 連絡車(ホンダ)を消防本部へ更新配置する。
平成17年 (2005年)	2月 3日 2月10日 2月28日 3月23日 3月25日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 5月24日 6月16日	防火水槽(40t)2基を増設する。(矢作町外) 通信指令棟竣工する。 高規格救急自動車(トヨタ)を荒川沖消防署へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(神立東一丁目外) 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第26分団へ更新配置する。 消防長に篠崎民雄就任する。(12代) 消防吏員8名を採用する。(実員155名) 消防本部機構を整備する。通信指令室を通信指令課に改称,5課8係とする。 新消防緊急通信指令システムを運用開始する。 連絡車(トヨタ)を消防本部へ移管配置する。 連絡車(日産)を消防本部へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(東真鍋町他)
平成18年 (2006年)	1月18日 2月14日 2月20日 2月20日 2月20日 2月20日 2月20日 2月20日 2月20日 3月10日	高規格救急自動車(トヨタ)を神立消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第6分団,第27分団へ更新配置する。 土浦市に新治村が編入する。 合併により消防職員の定数を156名から185名に改定する。 合併により新治地方広域事務組合消防本部から消防吏員25名を採用する。(実員180名) 合併により新治村消防団3箇分団19部団員定数367名を新治支団として編入し,土浦市消防団を20箇分団19部に,団員定数を679名に改定する。 広報車(クラウン)を並木出張所へ新規配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を新治消防署へ新規配置する。 水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型 2,000ℓ)を荒川沖消防署へ更新配置する。

平成19年 (2007年)	1月17日 2月22日 3月12日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 10月 1日	消火栓10基を増設する。(殿里他) 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第23分団へ更新配置する。 水槽付消防ポンプ自動車(水II型 2,000ℓ)を土浦消防署へ更新配置する。 消防長に中川新衛就任する。(13代) 消防本部機構を整備する。警防課と救急救助課を統合し、警防救急課を設置、4課7係とする。 消防署の消防係と機械係を統合し、消防係を設置、4係とする。 消防吏員3名を採用する。(実員176名) 新治支団第2分団第6部(高岡新田)を廃止し、20箇分団19部から20箇分団18部に改定する。 消防団員の定数を679名から629名に改定する。
平成20年 (2008年)	2月 6日 2月23日 3月 9日 3月19日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 10月 7日 11月 5日 12月 4日	消防ポンプ自動車(CD-I型)を第13分団へ更新配置する。 高規格救急自動車(トヨタ)を土浦消防署南分署へ更新配置する。 はしご付消防自動車(35m級)を土浦消防署へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(右籾他) 消防吏員4名を採用する。(実員179名) 新治支団18部を18分団とし、土浦市消防団を38箇分団に改定する。 消防団長に菊田宏就任する。(9代) 小型救助艇「かすみⅢ」を土浦消防署へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。(小山崎他) 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第21分団へ更新配置する。
平成21年 (2009年)	2月14日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 9月10日 10月22日 11月 5日 11月 5日 12月 3日	化学消防ポンプ自動車I型を神立消防署へ更新配置する。 消防長に土肥文夫就任する。(14代) 消防吏員9名を採用する。(実員180名) 消防団本部に女性消防部発足。 連絡車(ホンダ)を消防本部へ更新配置する。 土浦市危険物安全協会から寄贈された連絡車(トヨタ)を消防本部に配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第12分団へ更新配置する。 消防ポンプ自動車(CD-I型)を第28分団へ更新配置する。 高規格救急自動車(トヨタ)を土浦消防署へ更新配置する。
平成22年 (2010年)	2月24日 3月15日 3月16日 3月24日 3月31日 4月 1日 4月 1日	防火水槽(40t)1基を増設する。(下高津二丁目) 消火栓10基を増設する。(中村南四丁目他) 第30分団車庫を新築する。 水槽付消防ポンプ自動車(CD-I型600ℓ)を土浦消防署へ更新配置する。 神立消防署訓練塔を新築する。 消防長に青山良夫就任する。(15代) 消防吏員8名を採用する。(実員180名)
平成23年 (2011年)	1月29日 2月10日 2月25日 2月25日 3月 1日 3月15日 3月23日 4月 1日 12月22日 12月27日	資機材搬送車(最大積載量3.5t)を土浦消防署へ更新配置する。 第40分団車庫を新築する。 可搬ポンプ積載車を第35分団へ更新配置する。 可搬ポンプ積載車を第46分団へ更新配置する。 救助工作車(II型)を土浦消防署へ更新配置する。 消火栓9基を増設する。(手野町他) 防火水槽(40t)1基を増設する。(中高津三丁目) 消防吏員11名を採用する。(実員182名) 高規格救急自動車を土浦消防署並木出張所へ更新配置する。 指令車を本部へ更新配置する。

<p>平成24年 (2012年)</p>	<p>2月 9日 2月14日 3月 5日 3月15日 3月22日 3月28日 4月 1日 4月 1日 4月 1日 4月11日 4月11日 7月 6日 8月23日 9月 1日 10月 9日 12月18日 12月26日</p>	<p>水槽付消防ポンプ自動車（水－Ⅱ型）を土浦消防署南分署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車（CD－Ⅰ型）を第5分団へ更新配置する。 第35分団車庫を新築する。 消火栓10基を増設する。（蓮河原新町外） 消防ポンプ自動車（CD－Ⅰ型）を新治消防署へ更新配置する。 防火水槽（40 t）1基を増設する。（中神立町） 消防長に羽成祐一就任する。（16代） 消防本部機構を整備する。総務課に新消防庁舎建設準備室を新設、4課1室7係とする。 消防吏員8名を採用する。（実員185名） 小型ポンプ（可搬）積載車を第32分団へ更新配置する。 小型ポンプ（可搬）積載車を第36分団へ更新配置する。 土浦市防火管理協会から寄贈された連絡車（トヨタ）プリウスαを消防本部へ配置する。 携帯警報器を各署所へ配備する。 高度救助資機材を土浦消防署へ新規配置する。 神立消防署改修工事完了。使用開始。 荒川沖消防署改修工事完了。使用開始。 神立署庁舎改修工事に伴う外構工事完了。</p>
<p>平成25年 (2013年)</p>	<p>1月 7日 2月 4日 2月 4日 2月 7日 2月 8日 2月14日 3月 7日 3月18日 4月 1日 4月 1日 5月24日 7月26日 9月20日 9月20日 9月20日 10月 7日 12月13日</p>	<p>消防ポンプ自動車（CD－Ⅰ型）を第44分団へ更新配置する。 小型ポンプ（可搬）積載車を第31分団へ更新配置する。 小型ポンプ（可搬）積載車を第39分団へ更新配置する。 防衛省補助事業により、水槽付消防ポンプ自動車（水－Ⅱ型）を新治消防署へ更新配置する。 消火栓10基を増設する。（手野町外） 高規格救急自動車（ニッサン）を新治消防署へ更新配置する。 第6分団車庫を新築する。 荒川沖消防署に油圧救助器具を更新配置する。 消防吏員8名を採用する。（実員191名） 消防職員の定数を185名から192名に改定する。 防火水槽（40 t）1基を増設する。（烏山一丁目） 通信指令センター固定・通信指令課配置可搬式・土浦消防署配置高規格救急自動車・南分署配置高規格救急自動車・神立消防署配置高規格救急自動車の衛星電話を更新配置する。 陽圧式化学防護服2着を土浦消防署へ更新配置する。 消防ポンプ自動車（CD－Ⅰ型）予備車を新規で購入 消防団本部に配置する。 消火栓5基を増設する。（沖宿町外） 消火栓4基を増設する。（虫掛町外） 荒川沖消防署改修工事に伴う外構工事が完了する。</p>
<p>平成26年 (2014年)</p>	<p>1月31日 1月31日 2月24日 2月26日 3月 5日 3月25日 4月 1日 4月 1日 8月20日 8月25日 9月12日 10月31日 10月17日 11月14日</p>	<p>新治消防署太陽光給湯設備設置工事が完了する。 消防本部、土浦消防署新庁舎建設用地（13164.46㎡）を田中町地内に購入する。 消火栓1基を増設する。（田中三丁目） 高規格救急自動車（ニッサン）を荒川沖消防署へ更新配置する。 防火水槽（40 t）1基を増設する。（大畑） 第4分団車庫を新築する。 消防団長に宇田川仁一郎就任する。（10代） 消防吏員12名を採用する。（実員190名） 緊急消防援助隊支援資器材を購入する。 連絡車（ニッサン）NV200バネットを消防本部へ更新配置する。 防火水槽（40 t）1基を増設する。（中都町三丁目） 荒川沖消防署太陽光給湯設備設置工事が完了する。 高規格救急自動車（トヨタ）を神立消防署へ更新配置する。 消火栓1基を増設する。（中貫）</p>

平成27年 (2015年)	2月20日 3月13日 3月15日 3月25日 3月25日 4月 1日 4月 1日 8月31日 9月 1日 11月10日 11月18日	人員搬送車を消防本部へ新規配置する。 消火栓3基を増設する。(虫掛外) 消火栓3基を増設する。(菅谷町外) 第34分団車庫を新設する。 消火栓2基を増設する。(東真鍋町外) 消防長に宇都野和司就任する。(17代) 消防吏員9名を採用する。(実員188名) 土浦市地方消防相互応援協定を廃止する。(土浦市・桜村・千代田町) 消防相互応援協定を締結する。(土浦市・つくば市・石岡市・かすみがうら市・稲敷地方広域市町村圏事務組合) 消火栓4基を増設する。(沖宿町外) 消火栓4基を増設する。(菅谷町外)
平成28年 (2016年)	2月25日 3月 3日 2月25日 3月24日 3月24日 3月31日 4月 1日 4月 2日 8月19日 11月30日 12月9日	防火水槽(40t)1基, 消火栓2基を増設する。(消防本部庁舎) 消火栓1基を増設する。(烏山3丁目) いばらき消防指令センターに指令業務を移転する。 土浦市消防本部, 土浦消防署竣工する。 耐震性貯水槽飲料水兼用100m ³ 型1基を設置する(消防本部庁舎) 消防本部機構を整備する。通信指令課及び総務課新消防庁舎建設準備室を廃止する。3課6係とする。 消防吏員7名を採用する。(実員185名) 24時間体制の指揮隊を発足する。 消火栓1基を増設する。(田中二丁目) 消火栓1基を増設する。(下坂田) 連絡車(ニッサン)を土浦消防署南分署へ更新配置する。
平成29年 (2017年)	1月19日 2月24日 3月10日 3月30日 3月30日 4月1日 4月1日 4月1日 7月1日 12月28日	消防ポンプ自動車(CD-I型)を荒川沖消防署へ更新配置する。 消火栓6基を増設する。(手野町外) 消火栓1基を増設する。(沖宿町) 消防ポンプ自動車(CD-I型)を総務省からの無償貸与により第22分団へ更新配置する。 消火栓1基を増設する。(田中三丁目) 土浦消防署に並木出張所が統合される。4署1分署とする。 消防長に飯村甚就任する。(18代) 消防吏員5名を採用する。(実員185名) 消防長の階級を「消防正監」から「消防監」に改正する。 防火水槽(40t)1基を増設する。(小野)
平成30年 (2018年)	1月15日 3月30日 3月30日 4月 1日 4月 1日	第33分団車庫を新設する。 連絡車(ニッサン)を神立消防署へ更新配置する。 消火栓4基を増設する。(田村町外) 消防吏員5名を採用する。(実員183名) 消防団長に川崎隆義就任する。(11代)
平成31年 令和元年 (2019年)	3月17日 3月20日 3月28日 4月 1日	梯子車の運用を, 2台から1台に変更する。 *はしご付消防自動車(18m級)を廃止, 1台運用(35m級)を開始する。 高規格救急自動車(ニッサン)を土浦消防署南分署へ更新配置する。 消火栓1基を増設する。(下高津二丁目外) 消防吏員6名を採用する。(実員183名)

目 次

消 防 本 部

総務編

I 消防組織	
1. 消防本部組織図	1
2. 消防本部及び消防署事務分掌	
(1) 消防本部	2
(2) 消防署	3
3. 消防力の整備指針と現有	
(1) 署 所	4
(2) 消防車両等	4
(3) 人 員	4
(4) 消防水利	4
4. 消防職員	
(1) 消防職員の定員及び実員	5
(2) 消防職員の配置状況	5
(3) 消防現勢	6
(4) 消防職員勤続年数調	6
(5) 消防職員年齢調	6
(6) 消防職員諸手当	7
(7) 消防職員教育状況	8
(8) 消防職員教育計画	9
(9) 消防職員特殊技能資格取得状況	10
II 消防予算	
1. 市予算（一般会計）と消防予算	11
2. 市予算と消防予算の比率	12
3. 消防予算の内訳	12
4. 消防費決算状況	13
III 消防施設	
1. 消防庁舎	14
2. 管轄区域	15
3. 消防本部（署）配置車両	16
4. 消防車両使用経過年数	18
5. 消防本部・消防団ホース保有状況	19
6. 消防機器装備状況	20
7. 消防車両使用状況	22
8. 水防用資器材備蓄一覧表	25

予防編

I 予防	
1. 防火対象物及び中高層建築物状況 (150㎡以上)	26
2. 建築同意	
(1) 建築同意事務処理状況	27
(2) 建築同意件数累年比較 (過去5年間)	27
3. 防火対象物使用開始検査状況	28
4. 防火対象物立入検査及び消防用 設備等設置検査実施状況	29

5. 防火対象物定期点検報告等及び 消防用設備等点検結果報告状況	
(1) 防火対象物定期点検報告等	30
(2) 消防用設備等点検結果報告状況	30
6. 防火対象物防火管理状況	31
7. 防火対象物防災管理状況	32
8. 火災予防広報活動状況	33
9. 住宅用火災警報器設置状況累年比較 (過去5年間)	33
II 危険物	
1. 危険物製造所等の許可件数状況	34
2. 危険物製造所等倍数別調	34
3. 危険物製造所等の許可状況	
(1) 危険物施設数の推移	35
(2) 区分別施設数	35
4. 危険物製造所等許可状況	36
5. 危険物製造所等検査状況	36
6. 危険物製造所等届出状況	36
7. 危険物製造所等立入検査実施状況	37
8. 危険物関係手数料納付状況	38
9. 地下貯蔵タンク流出防止対策措置状況	38

III 消防クラブ等

1. 幼少年消防クラブ・婦人防火クラブ結成状況	39
-------------------------	----

警防救急編

I 警防	
1. 平成30年中火災発生状況	41
(1) 火災種別出火件数	42
(2) 火災原因別出火件数	42
(3) 時間帯別出火件数	43
(4) 過去5カ年の推移	
ア 死傷者	43
イ 建物火災損害見積額	44
ウ 建物火災焼損面積	44
2. 火災	
(1) 当市と全国・県との火災概況比較	45
(2) 月別火災損害額	46
(3) 覚知別火災損害額	47
(4) 月別・覚知別火災件数	47
(5) 月別・死傷者数	47
(6) 月別・原因別火災件数	48
(7) 時間別・原因別火災件数	49
(8) 町内別火災発生件数	50
(9) 最近5カ年間の出火状況比較	
ア 出火率	51
イ 月別火災件数	51
ウ 時間別火災件数	51

エ	火災種別損害額	52
オ	建物火災焼損件数及び 損害額	52
カ	全火災に対する建物 火災の占める割合等	52
キ	火災原因別出火件数	53
(10)	損害額500万円以上の火災	54
(11)	気象別火災発生状況	55
(12)	原因と主な経過	56
3.	消防広域応援体制	57
4.	土浦市消防本部緊急消防援助隊 登録部隊	57
5.	自主防災組織結成状況	58
II 救急		
1.	平成30年中救急概要	62
2.	救急出場件数等の推移	62
3.	事故種別救急活動状況	63
4.	事故種別所属別出場状況	63
5.	搬送人員等	
(1)	事故種別年齢別搬送人員	64
(2)	程度別年齢別搬送人員	65
(3)	急病にかかる年齢別疾病 分類別搬送人員	66
(4)	各署所別現場到着時間別出場件数	66
(5)	各署所別病院収容時間別搬送人員	66
6.	出場件数	
(1)	時間別事故種別出場件数	67
(2)	曜日別事故種別出場件数	67
(3)	月別事故種別出場件数	68
(4)	高齢者搬送状況推移	68
7.	医療機関選定状況	69
8.	医療機関別搬送人員	69
9.	救急隊の行った応急処置状況	70
10.	消防ポンプ車等との連携	
(1)	PA連携	71
(2)	ドクターカー・ドクターヘリ	71
11.	心肺蘇生処置対象者の状況	
(1)	年齢別事故種別心肺蘇生対象者 搬送人員	71
(2)	心肺機能停止傷病者の1ヶ月 生存率及び社会復帰率	72
(3)	心原性心肺機能停止傷病者の 1ヶ月生存率及び社会復帰率	73
(4)	特定行為実施傷病者における病院 前心拍再開率及び1ヶ月生存率	74
(5)	心肺停止前の重症傷病者への 静脈路確保及び低血糖発作症例 へのブドウ糖投与	74
12.	救急講習実施状況	75
13.	土浦市と茨城県と全国の救急活動概要比較	76
14.	自動体外式除細動器(AED)配置状況	77

III 救助		
1.	救助出動件数の推移	78
2.	救助出動状況	
(1)	事故種別救助出動状況	78
(2)	各署別救助出動件数	78
(3)	事故種別出動人員・活動人員	79
(4)	事故種別発生場所別出動活動件数	79
(5)	事故種別発生場所別救助人員	80

IV 通信施設		
1.	消防用無線通信施設	81
2.	気象統計	
(1)	気温	82
(2)	湿度	82
(3)	風速	82
(4)	雨量	82
3.	警報等発令数	83

消 防 団

I 消防団組織		
1.	消防団組織図	84
2.	消防団員	
(1)	消防団員の定員及び実員	85
(2)	消防団員報酬手当	85
(3)	消防団員配置状況	86
(4)	消防団員勤続年数調	88
(5)	消防団員年齢別調	88
(6)	消防団員職業構成別調	89
(7)	消防団員就業形態別調	89
3.	車庫、車両	
(1)	消防団車庫及び担当区域	90
(2)	消防団配置車両	92

総務編

I 消防組織

本市の消防は市民の生命，身体及び財産を守り，安心して暮らせる街を目指し，1本部4署1分署職員183名，団員506名の体制をもって各種災害に取り組んでいる。

平成28年に新たな消防本部庁舎に移転したことにより，署所配置の効率化が図られ，急に進展する高度情報化，救急需要の増加，災害の複雑化・大規模化の災害対応が強化速された。

また，設備のみならず人員の育成及び確保，車両及び水利の整備に努め，量的充実を望めない今日，職団員の教育に力を注ぎ，質的充実をめざしているところである。

II 消防予算

令和元年度本市の予算額は，53,020,000千円で，前年度と比較して3.7%増，消防予算は，1,804,901千円で，前年度と比較し1.0%減であり，市予算との構成比は3.4%となっている。

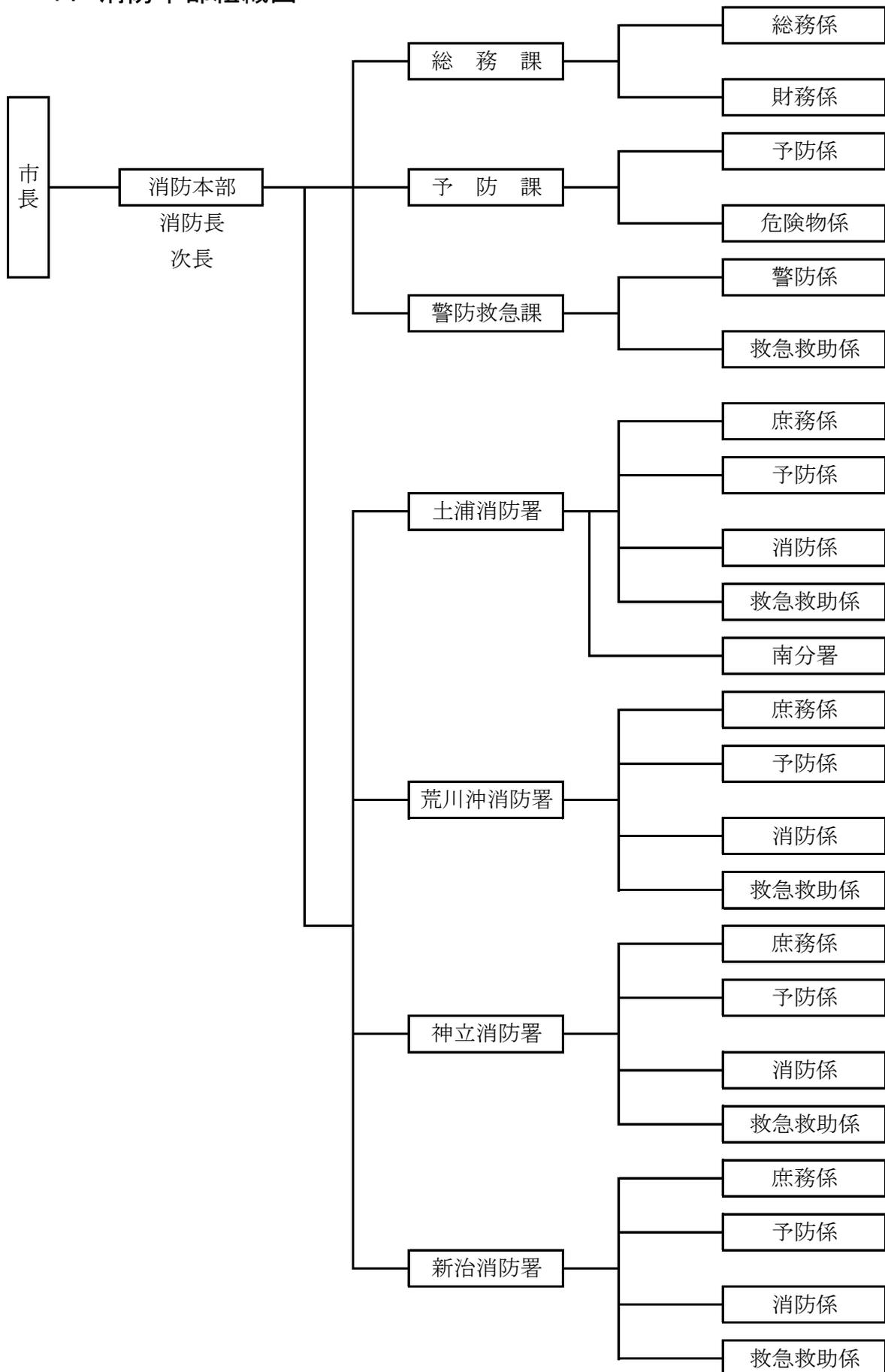
財政硬直化のおりにあっても，近年における都市構造や市民生活様式の変化に対応できるよう，消防力の整備を進展させるための適正な予算の確保に務めているところである。

III 消防施設

消防施設は，逐年整備強化を図り，現在，化学車，梯子車，救助工作車をはじめとする消防車両等13台，高規格救急車6台を配置，消防団においては消防ポンプ車24台，小型動力ポンプ積載車14台を配置し，これらの車両を更新整備すると共に，時代に応じた車両及び各種器材の導入を推し進めている。

I. 消防組織

1. 消防本部組織図



2. 消防本部及び消防署事務分掌

(1) 消 防 本 部

課名	係名	事 務 分 掌
総務課	総務係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消防の組織，事務の企画及び総合調整に関する事。 2. 儀式，各種会議及び渉外事務に関する事。 3. 文書，統計及び公印の管守に関する事。 4. 職員の人事，研修及び厚生に関する事。 5. 職員の公務災害補償に関する事。 6. 表彰に関する事。 7. 消防職員委員会に関する事。 8. 各種消防長会に関する事。 9. 他課の所管に属しない事項に関する事。
	財務係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予算及び決算に関する事。 2. 物品の購入，保管及び出納に関する事。 3. 職員の給与品及び貸与品に関する事。 4. 旅行命令に関する事。 5. 消防施設の整備及び管理に関する事。 6. 消防用財産に関する事。 7. 都市計画法に基づく開発行為の指導に関する事。
予防課	予防係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 火災予防及び広報に関する事。 2. 建築物の確認，許可及び認可の同意に関する事。 3. 消防用設備等の設置及び指導に関する事。 4. 建築物等の防火に関する事。 5. 予防査察及び違反処理に関する事。 6. 防火管理の指導に関する事。 7. 各種消防クラブの育成指導に関する事。 8. 防火・危険物安全協会に関する事。
	危険物係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険物の規制に関する事。 2. 危険物製造所等の査察及び違反処理に関する事。 3. 危険物による火災予防に関する事。 4. 高圧ガス等に係る火災予防に関する事。
警防救急課	警防係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 火災，水害その他の災害の警戒防御及び調査に関する事。 2. 消防技術の研究，訓練及び指導に関する事。 3. 消防機械器具の研究及び技術指導に関する事。 4. 消防計画に関する事。 5. 消防の行事に関する事。 6. 消防相互応援協定に関する事。 7. 自主防災組織の育成指導に関する事。 8. 消防団に関する事。 9. 消防協会に関する事。 10. 火災，救急その他災害出動指令及び通信統制に関する事。 11. 通信機器の運用及び維持管理に関する事。 12. 火災その他の災害及び救急に関する情報の収集に関する事。 13. 気象情報の収集及び伝達に関する事。 14. 火災警報の発令に関する事。 15. 警戒体制の配備に関する事。 16. 指揮隊の運用に関する事。 17. 茨城消防救急無線・指令センター運営協議会に関する事。
	救急救助係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急救助技術の研究及び指導に関する事。 2. 救急隊員及び救助隊員の教養訓練に関する事。 3. 救助隊に関する事。 4. 救急救助統計に関する事。 5. 応急手当の普及啓発に関する事。 6. 救急救助資機材の管理に関する事。 7. 患者等搬送事業の育成指導に関する事。 8. 土浦地区メディカルコントロール協議会等に関する事。

(2) 消 防 署

署所名	係 名	事 務 分 掌
土浦消防署 荒川沖消防署 神立消防署 新治消防署	庶務係	1. 署員の配置及び休暇等に関する事。 2. 文書の收受、発送及び保管に関する事。 3. 公印の管守に関する事。 4. 消防統計に関する事。 5. 庁用備品等の維持管理に関する事。 6. その他各係に属しない事項に関する事。
	予防係	1. 火災予防に関する事。 2. 火災予防思想の普及に関する事。 3. 建築物の確認、許可及び認可の同意に関する事。 4. 危険物の規制に関する事。 5. 高圧ガス等による火災予防に関する事。 6. 消防用設備等の設置及び指導に関する事。 7. 予防査察に関する事。 8. 防火管理に関する事。
	消防係	1. 火災、水害その他の災害の警戒防御に関する事。 2. 火災の原因及び損害の調査に関する事。 3. り災証明に関する事。 4. 地理水利に関する事。 5. 署員の訓練に関する事。 6. 消防機械器具の維持、管理及び技術に関する事。 7. 機関員の技術管理に関する事。
	救急救助係	1. 救急救助事務に関する事。 2. 救急隊員及び救助隊員の教養訓練に関する事。 3. 応急手当の普及啓発に関する事。 4. 救急救助資機材の管理に関する事。 5. 救急救助技術の指導に関する事。

3. 消防力の整備指針と現有

(1) 署 所

区分	基準 現有別	基 準	現 有	充足率
消防本部		1	1	100%
署 所		5	5	100%

(2) 消防車両等

区分	基準 現有別	基 準	現 有	充足率
指 揮 車		1	1	100%
ポンプ自動車		10	9	90%
化学自動車		1	1	100%
梯子自動車		2	1	50%
救助工作車		1	1	100%
救急自動車		6	6	100%
小型救助艇		1	1	100%
合 計		22	20	91%

(3) 人 員

区分	基準 現有別	基 準 数	現 有 数	充足率
消防職員		283	183	65%

(4) 消防水利

区 分	消火栓 (150φ以上)	防火水槽 (40m ³ 以上)	その他	合計
現 有	875	550	49	1,474

4. 消 防 職 員

(1) 消防職員の定員及び実員

	合 計
定 員	185
実 員	183

平成31年4月1日現在

(2) 消防職員の配置状況

※総務課配置の消防士6名は令和元年度新規採用者

階 級 区 分		合 計	消防監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 長	消 防 副 長	消防士	その他 の職員	
合 計		183	1	11	45	23	40	50	11	2	
消 防 本 部	小 計	33	1	4	9	1	9	1	6	2	
	消 防 長	1	1								
	次 長	1		1							
	総 務 課	13		1	2		3		6	1	
	予 防 課	7		1	2		3	1			
	警 防 救 急 課	6		1	2	1	1			1	
	職 員 派 遣	5			3		2				
消 防 署	小 計	150	0	7	36	22	31	49	5	0	
	土 浦 署	署 長	1		1						
		署 員	71		2	14	6	20	24	5	
	南 分 署	分 署 長	1		1						
		署 員	14			4	4	2	4		
	荒 川 沖 署	署 長	1		1						
		署 員	20			6	4	3	7		
	神 立 署	署 長	1		1						
		署 員	20			6	4	3	7		
	新 治 署	署 長	1		1						
		署 員	20			6	4	3	7		

職員派遣先

- ・総務部総務課危機管理室 1名 (実員には含めず)
- ・茨城県防災航空隊 1名
- ・いばらき消防指令センター 4名

(3) 消 防 現 勢

摘要	消 防 職 員			消 防 自 動 車			救 急 自 動 車		
	区分								
現 況	183 名			13 台			6 台		
細 別	消防職員一人当たり			消防自動車一台当たり			救急自動車一台当たり		
値	面積・k㎡	人口・人	世 帯	面積・k㎡	人口・人	世 帯	面積・k㎡	人口・人	世 帯
	0.6	758	326	8.7	10,667	4,587	18.9	23,112	9,939

(霞ヶ浦の面積を含まない113.62k㎡で算出。平成31年4月1日現在)

(4) 消防職員勤続年数調

年 数 階 級	合計	3年	3年	5年	10年	15年	20年	25年	30年	35年	40年
		未満	～ 4年	～ 9年	～ 14年	～ 19年	～ 24年	～ 29年	～ 34年	～ 39年	以上
合 計	183	16	15	46	23	13	12	15	13	22	8
消 防 監	1									1	
消防司令長	11								3	7	1
消 防 司 令	45						3	12	10	14	6
消防司令補	23					11	9	3			
消 防 士 長	40			19	19	2					
消防副士長	50	5	15	27	3						
消 防 士	11	11									
その他の職員	2				1						1

(5) 消防職員年齢調

年 齢 階 級	合計	20歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳
		未満	～ 24歳	～ 29歳	～ 34歳	～ 39歳	～ 44歳	～ 49歳	～ 54歳	～ 59歳	以上
合 計	183	1	20	34	34	21	18	10	26	18	1
消 防 監	1									1	
消防司令長	11								3	8	
消 防 司 令	45						5	8	23	9	
消防司令補	23					8	13	2			
消 防 士 長	40			1	27	12					
消防副士長	50		11	32	7						
消 防 士	11	1	9	1							
その他の職員	2					1					1

(6) 消防職員諸手当

種 別	支 給 基 準	
時間外勤務手当	勤務1時間につき 1時間当たりの給与額の100分の125 午後10時から翌午前5時まで100分の150 ※ 週休日・祝日・年末年始 1時間当たりの給与額の100分の135 午後10時から翌午前5時まで100分の160	
休日勤務手当	勤務1時間につき 1時間当たりの給与額の100分の135	
機関業務手当	1当務（機関員が災害等現場又は 消防署外で実施する訓練 に出勤した場合に限る）	1級 300円 2級 250円 3級 200円
救急業務手当	1回（救急業務に従事したとき）	救急救命士 300円 救急隊員 150円
災害業務手当	1回（水火災等の災害現場に出動し，作業に従事したとき）	200円
特別救助業務手当	1回（特別救助隊員が救助業務に従事したとき）	200円

(7) 消防職員教育状況（平成30年度）

種 別		回数・人員・階級		実 施 回 数	受 講 人 員	消防司令 以 上	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	
		回 数	人 員								
合 計				31 回	66 名	2 名	14 名	11 名	32 名	7 名	
消 防 大 学 校	幹 部 科			2	2	2					
	初任教育	初 任 科			2	5					5
		専科教育	特 殊 災 害 科			1	2			2	
	火 災 調 査 科				1	2		1	1		
	救 急 科				2	6				6	
	危 険 物 科				1	2			1	1	
	救 助 科				1	2				2	
	警 防 科				1	2		1		1	
	特別教育	水 難 救 助 課 程			1	1			1		
		操法指導者研修会（ポンプ）			1	1		1			
		操法指導者研修会（小型）			1	1		1			
	各 種 研 修	救急救命士資格取得研修			1	1			1		
		指導救命士養成研修			1	1		1			
		A H A - B L S プロバイダーコース			1	2				2	
		A H A - A C L S プロバイダーコース			1	2				2	
		気 管 挿 管 病 院 実 習			3	4		2		2	
		玉 掛 け 技 能 講 習			1	1				1	
小型移動式クレーン運転技能講習				1	1				1		
足場組立等作業主任者講習会				1	1				1		
小型船舶免許取得講習会				1	1				1		
小型船舶免許更新講習				1	6		3	1	2		
日本救急医学会関東地方会救急隊員学術研究会				1	2		1			1	
予 防 技 術 検 定				1	13		2	1	9	1	
危 険 物 取 扱 者 保 安 講 習 会				1	3		1	2			
危 険 物 事 故 事 例 セ ミ ナ ー				1	1				1		
等	消防・救急緊急自動車運転技能課程			1	1			1			

(8) 消防職員教育計画（令和元年度）

種		別	期 間 (日)	予定人員
消防	大学	幹 部 科	46	2
		火 災 調 査 科	50	1
消 防 学 校	初任教育	初 任 科	101	6
	専科教育	特 殊 災 害 科	7	2
		火 災 調 査 科	10	2
		救 急 科	36	3
		予 防 査 察 科	5	2
		救 助 科	24	2
		警 防 科	11	2
	特別教育	水 難 救 助 課 程	10	1
		操 法 指 導 者 研 修 会 (ポ ン プ)	1	1
		操 法 指 導 者 研 修 会 (小 型)	1	1
各 種 研 修 等	救 急 救 命 士 資 格 取 得 研 修	127	1	
	指 導 救 命 士 養 成 研 修	43	1	
	A H A - B L S プ ロ バ イ ダ ー コ ー ス	1	3	
	A H A - P E A R S プ ロ バ イ ダ ー コ ー ス	1	1	
	A H A - A C L S プ ロ バ イ ダ ー コ ー ス	2	1	
	気 管 挿 管 病 院 実 習	30症例	4	
	玉 掛 け 技 能 講 習	3	1	
	小 型 移 動 式 ク レ ー ン 運 転 技 能 講 習	3	1	
	足 場 組 立 等 作 業 主 任 者 講 習 会	2	1	
	小 型 船 舶 免 許 取 得 講 習 会	3	1	
	小 型 船 舶 免 許 更 新 講 習	1	7	
	日 本 救 急 医 学 会 関 東 地 方 会 救 急 隊 員 学 術 研 究 会	1	1	
	予 防 技 術 検 定	1	12	
	危 険 物 取 扱 者 保 安 講 習 会	1	3	
危 険 物 事 故 事 例 セ ミ ナ ー	1	1		

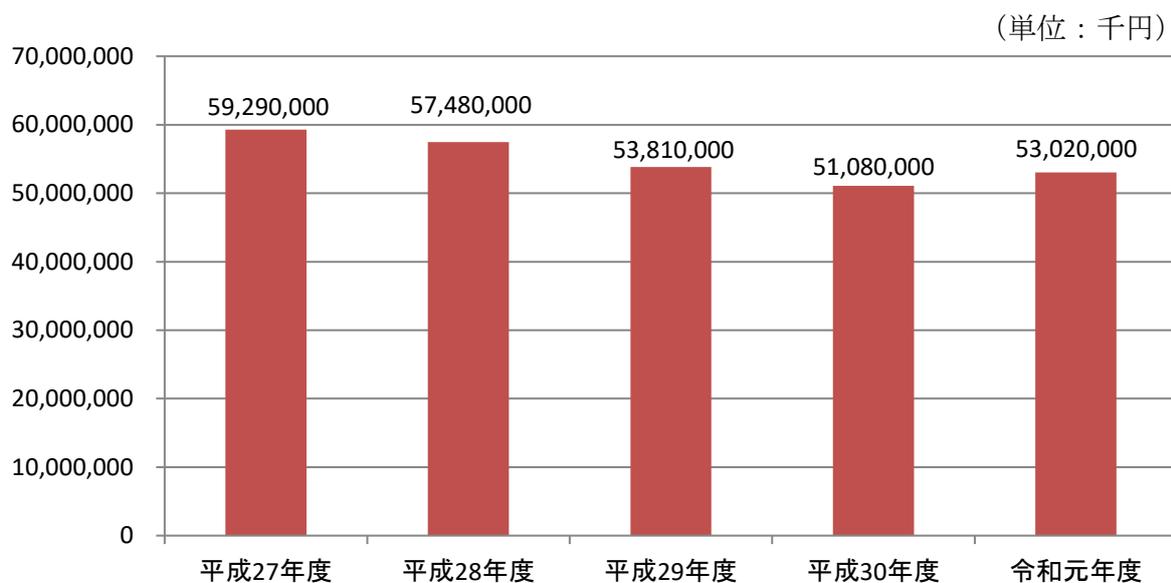
(9) 消防職員特殊技能資格取得状況

種 別	階 級	合計	消防監	消 防	消 防	消 防	消 防	消 防	消防士
				司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	
自 動 車 整 備 士		3		1		1	1		
特 殊 無 線 技 士		170		11	41	23	40	50	5
電 気 工 事 士		1			1				
救 急 有 資 格 者		169		11	45	23	41	46	3
	うち救急救命士	57		5	13	12	14	10	3
	うち気管挿管認定	43		5	13	12	13		
	うち薬剤認定	57		5	13	12	14	10	3
	うち拡大処置認定	55		4	12	12	14	10	3
ガ ス 溶 接 士		24		2	14	3	4	1	
ア ー ク 溶 接 士		4		1		1		2	
危 険 物 取 扱 者	甲 種	3		1		1	1		
	乙 種	114		5	4	12	39	48	6
消 防 設 備 士	甲 種	2				1	1		
	乙 種	3			1	1		1	
小 型 船 舶 操 縦 士		34		3	12	9	7	3	
衛 生 管 理 者		3		1	1	1			
潜 水 士		50		2	12	8	15	13	
足 場 組 立 等 作 業 主 任 者		23			15	3	4	1	
玉 掛 け 技 能 講 習 修 了 者		43		2	17	7	10	7	
小型移動式クレーン運転技能講習修了者		46		2	19	7	13	5	
大 型 第 一 種 自 動 車 免 許		164		10	45	23	40	46	
大 型 第 二 種 自 動 車 免 許		2			2				
大 型 特 殊 自 動 車 免 許		7			2	1	1	3	
特別管理産業廃棄物管理責任者		12		2	6	4			
特定化学物質等作業主任者		6		1	2	2	1		
チェーンソー取扱者		1				1			
酸素欠乏危険作業主任者		13			4	2	5	2	

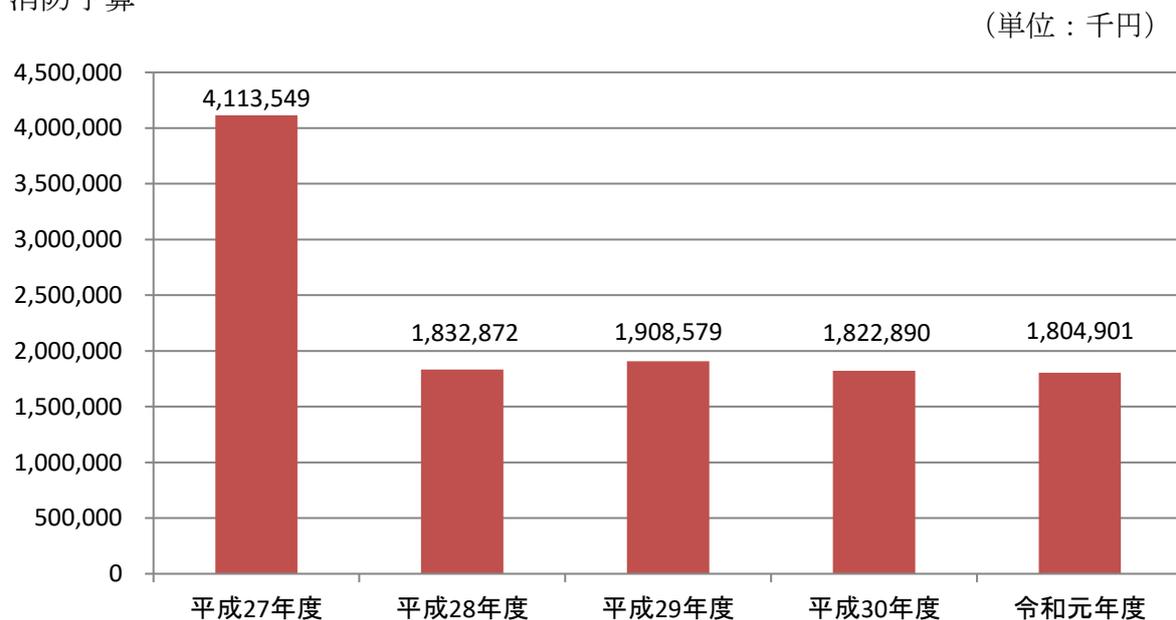
Ⅱ. 消防予算

1. 市予算（一般会計）と消防予算

市予算



消防予算



令和元年度	・ 市予算と消防予算の比率	3.4 %
	・ 消防予算の市民一人当りの額	13,016 円
	・ 消防予算の一世帯当りの額	30,266 円
	・ 消防予算の消防職員一人当りの額	9,862,847 円

2. 市予算と消防予算の比率(当初予算)

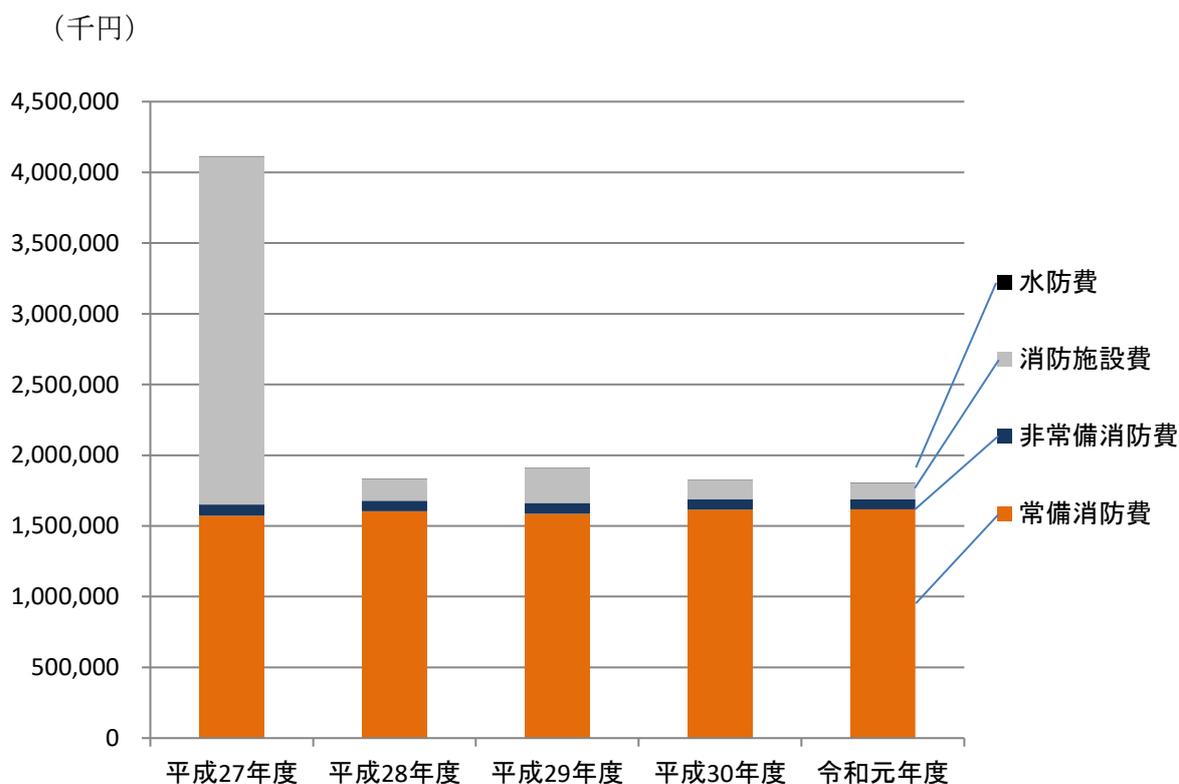
(単位：千円)

年度 区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市予算額	59,290,000	57,480,000	53,810,000	51,080,000	53,020,000
消防予算額	4,113,549	1,832,872	1,908,579	1,822,890	1,804,901
比率(%)	6.9	3.1	3.5	3.5	3.4

3. 消防予算の内訳(当初予算)

(単位：千円)

年度 区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
消防予算額	4,113,549	1,832,872	1,908,579	1,822,890	1,804,901
常備消防費	1,572,855	1,604,321	1,586,207	1,614,090	1,616,411
非常備消防費	77,869	74,864	77,084	74,003	74,082
消防施設費	2,462,181	153,062	244,662	134,192	113,795
水防費	644	625	626	605	613

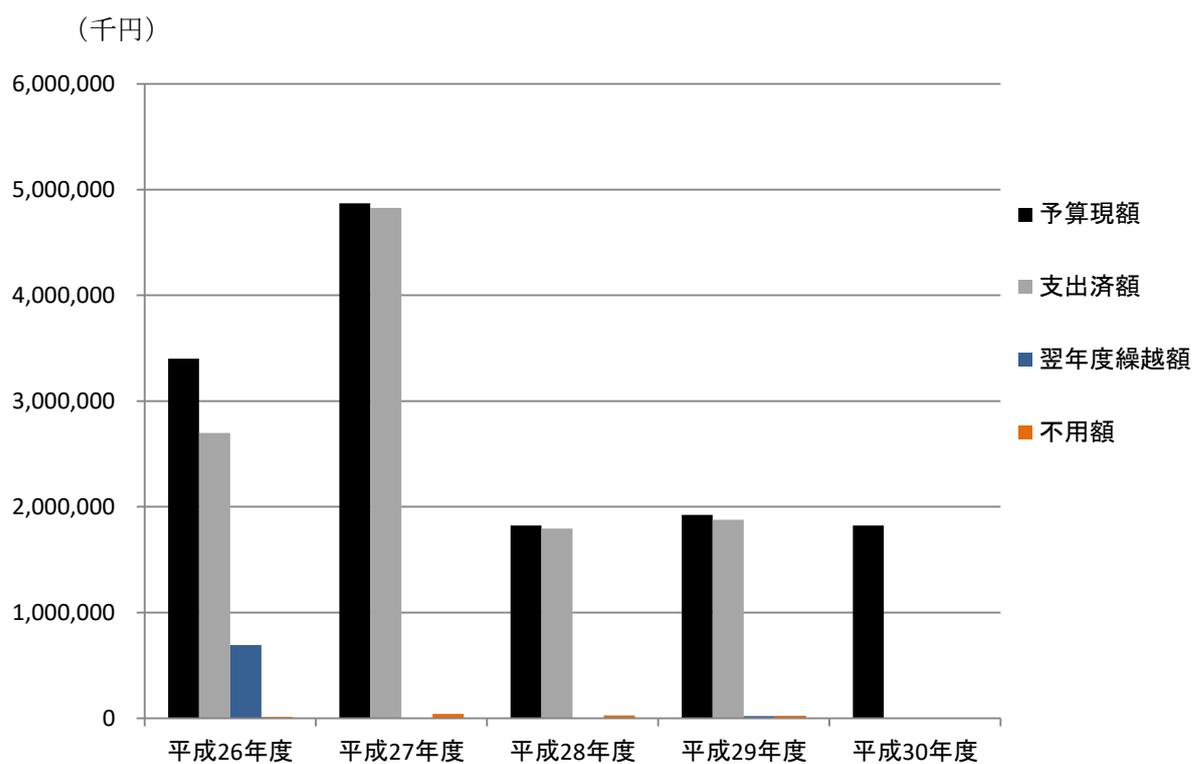


消防予算の内訳

4. 消防費決算状況

(単位：円)

区分 \ 年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
予 算 現 額	3,402,600,000	4,870,277,152	1,822,172,000	1,923,302,000	1,822,890,000
支 出 済 額	2,698,349,773	4,828,057,629	1,794,486,168	1,877,953,273	—
翌 年 度 繰 越 額	691,342,152	0	0	19,998,900	—
不 用 額	12,908,075	42,219,523	27,685,832	25,349,827	—



消 防 費 決 算 状 況

Ⅲ. 消防施設

1. 消防庁舎

名称	所在地	建物構造	面積 (㎡)			開設
			建面積	延面積	敷地面積	
消防本部 土浦消防署	土浦市田中町 2083番地1	庁舎：鉄骨造3階建(免震構造) 公用車庫：鉄筋コンクリート・鉄骨造 訓練塔A：鉄骨・鉄筋コンクリート・鉄筋鉄骨コンクリート混構造 訓練塔B：鉄筋コンクリート造 キャノピー：鉄骨造	2,262.55	4,767.59	13,396.06	昭和30年 4月 平成28年 3月(移転)
南分署	土浦市桜ヶ丘町 13番1号	鉄骨平屋建	320.59	320.59	708.02	昭和58年 12月
荒川沖消防署	土浦市中荒川沖町 27番12号	庁舎：鉄筋コンクリート2階建 倉庫：軽量鉄骨造	365.43	537.82	3,361.80	昭和49年 7月 平成24年 12月(改修)
神立消防署	土浦市神立中央5丁目 32番6号	庁舎：鉄筋コンクリート2階建 訓練塔1：軽量鉄骨造 訓練塔2：軽量鉄骨造	331.48	635.19	2,887.52	昭和53年 5月 平成24年 10月(改修)
新治消防署	土浦市大畑46番地	鉄筋コンクリート平屋建	385.30	360.10	3,420.48	昭和62年 3月



2. 管轄区域

名 称	管 轄 区 域
土浦消防署	<p>中央1・2丁目，城北町，大手町，文京町，立田町，東崎町，川口1・2丁目，大和町，有明町，桜町1・2・3・4丁目，大町，千束町，生田町，富士崎1・2丁目，田中1・2・3丁目，田中町，虫掛，中高津1・2・3丁目，下高津1・2・3・4丁目，上高津，上高津新町，天川1・2丁目，宍塚，矢作，飯田，佐野子，粕毛，真鍋1・2・3・4・5・6丁目，東真鍋町，西真鍋町，真鍋新町，殿里，木田余，木田余西台，木田余東台1・2・3・4・5丁目，湖北1・2丁目，並木1・2・3・4・5丁目，東並木町，西並木町，都和1・2・3・4丁目，常名</p>
南分署	<p>蓮河原町，蓮河原新町，滝田1・2丁目，港町1・2・3丁目，国分町，小松1・2・3丁目，小松ヶ丘町，千鳥ヶ丘町，永国，永国東町，永国台，小岩田，小岩田東1・2丁目，小岩田西1・2丁目，桜ヶ丘町，大岩田，霞ヶ岡町，</p>
荒川沖消防署	<p>中，中村東1・2・3丁目，中村南1・2・3・4・5・6丁目，中村西根，西根南1・2・3丁目，西根西1丁目，卸町1・2丁目，右靱，摩利山新田，烏山1・2・3・4・5丁目，中荒川沖町，荒川沖東1・2・3丁目，荒川沖西1・2丁目，荒川沖，荒川本郷，沖新田，北荒川沖町，乙戸，乙戸南1・2・3丁目，小山田1・2丁目</p>
神立消防署	<p>今泉，栗野町，紫ヶ丘，小山崎，中貫，中都町1・2・3・4丁目，笠師町，板谷1・2・3・4・5・6・7丁目，東都和，若松町，東若松町，東中貫町，神立町，神立中央1・2・3・4・5丁目，北神立町，中神立町，神立東1・2丁目，白鳥町，菅谷町，手野町，田村町，沖宿町，おおつ野1・2・3・4・5・6・7・8丁目</p>
新治消防署	<p>東城寺，小野，小野沢辺東城寺入会地，大志戸，本郷，永井，永井本郷入会地，小高，沢辺，田宮，大畑，田土部，下大島，高岡，藤沢新田，藤沢，上坂田，下坂田</p>

3. 消防本部（署）配置車両

所属	種別	社名 年式	車両 製作所	性能	規格 (cm)			総重量 (kg)	燃料	総排気量 (ℓ)	無線機	緊急消防 援助隊登録
					長さ	巾	高さ					
消防本部	指揮車	トヨタ 2011年	クラウン	—	487	179	162	1,935	ガソリン	2.49	土浦本部 指揮2	
	水槽付ポンプ車(予)	U D 1999年	G M いちほら	A-2 (2,000ℓ)	670	220	275	8,750	軽油	9.20	土浦本部 タンク1	
	ポンプ車(予)	トヨタ 2013年	G M いちほら	A-2	508	188	250	4,590	〃	4.00	土浦本部 ポンプ1	
	救急車(予)	トヨタ 2008年	茨城トヨタ	高規格	564	189	256	3,245	ガソリン	2.69	土浦本部 救急1	
	人員搬送車	三菱 2015年	ローザ	20人乗	702	201	281	5,060	軽油	2.99	土浦本部 輸送1	○
	連絡車	トヨタ 2012年	プリウス	—	461	177	157	1,725	ガソリン	1.79	無	
	連絡車	ホンダ 2009年	アクティ	—	339	147	188	1,410	〃	0.65	〃	
	連絡車	ニッサン 2005年	ADバン	—	437	169	147	1,635	〃	1.29	〃	
	連絡車	ホンダ 2004年	ステップ ワゴン	—	467	169	184	1,950	〃	1.99	〃	
	連絡車	ニッサン 2014年	バネット	—	440	169	185	1,960	〃	1.59	〃	
	連絡車	トヨタ 2009年	ハイエース	—	484	188	210	2,500	〃	2.69	〃	
	資材搬送車	三菱 2001年	ミニキャブ	350kg	339	147	178	1,170	〃	0.65	土浦本部 搬送1	
土浦消防署	水槽付ポンプ車	三菱 2007年	日本機械 工業	A-2 (2,000ℓ)	668	228	300	10,650	軽油	7.54	土浦 タンク1	
	水槽付ポンプ車	U D 2002年	G M いちほら	A-2 (8,000ℓ)	928	248	312	21,150	〃	21.20	土浦 タンク2	
	ポンプ車	日野 2010年	G M いちほら	A-2 (600ℓ)	580	188	273	6,795	〃	4.00	土浦 ポンプ1	
	はしご車	U D 2007年	日本機械 工業	先端屈折 (35m)	1,115	249	375	20,370	〃	21.20	土浦 梯子1	○
	救助工作車	日野 2011年	モリタ	クレーン2.9t ウインチ 前・後5.0t	769	230	320	11,265	〃	6.40	土浦 救助1	○
	救急車	トヨタ 2009年	茨城トヨタ	高規格	562	189	256	3,245	ガソリン	2.69	土浦 救急1	
	救急車	トヨタ 2011年	茨城トヨタ	高規格	562	189	256	3,195	〃	2.69	土浦 救急2	
	指揮車	トヨタ 2006年	茨城トヨタ	—	563	180	255	3,125	〃	3.37	土浦本部 指揮1	
	査察広報車	三菱 2003年	パジェロ	4WD	477	189	204	2,475	〃	2.97	土浦 広報1	
	資機材搬送車	日野 2011年	茨城日野	クレーン 2.9t	684	219	267	7,960	軽油	4.00	土浦 搬送1	○
	小型救助艇	スズキ 2008年	ヤンマー	—	657	264	123	2,700	ガソリン	2.87	土浦 消防艇1	

所 属	種 別	社 名 年 式	車 両 製作所	性 能	規 格 (cm)			総重量 (kg)	燃 料	総排気量 (ℓ)	無線機	緊急消防 援助隊登録
					長 さ	巾	高 さ					
南分署	水槽付 ポンプ車	日 野 2012年	モリタ	A - 2 (2,000ℓ)	695	230	300	9,590	軽油	6.40	土浦南 タンク 1	
	救 急 車	ニッサン 2019年	茨城日産	高規格	533	188	270	3,255	ガソリン	2.48	土浦南 救急 1	○
	査 察 広 報 車	ニッサン 2016年	ウイング ロード	—	441	169	150	1,515	〃	1.49	土浦南 広報 1	
荒川沖 消防署	水槽付 ポンプ車	いすゞ 2006年	日本機械 工業	A - 2 (2,000ℓ)	745	228	300	10,580	軽油	7.16	土浦荒川沖 タンク 1	○
	ポンプ車	日 野 2017年	モリタ	A - 2 (600ℓ)	580	192	295	6,825	〃	4.00	土浦荒川沖 ポンプ 1	
	救 急 車	ニッサン 2014年	茨城日産	高規格	564	190	255	3,305	ガソリン	3.49	土浦荒川沖 救急 1	
	査 察 広 報 車	三 菱 2001年	リベロ	—	430	168	156	1,345	〃	1.46	土浦荒川沖 広報 1	
神立 消防署	化 学 車	三 菱 2009年	モリタ	A - 2 (1,700+300ℓ)	725	230	300	10,320	軽油	7.54	土浦神立 化学 1	
	ポンプ車	日 野 2002年	G M いちはら	A - 2	555	188	285	4,995	〃	4.89	土浦神立 ポンプ 1	○
	救 急 車	トヨタ 2014年	茨城トヨタ	高規格	565	189	272	3,245	ガソリン	2.69	土浦神立 救急 1	
	査 察 広 報 車	ニッサン 2018年	セレナ	—	469	169	201	2,110	〃	1.99	土浦神立 広報 1	
新治 消防署	水槽付 ポンプ車	いすゞ 2013年	モリタ	A - 2 (2,000ℓ)	705	230	300	10,830	軽油	5.19	土浦新治 タンク 1	
	ポンプ車	いすゞ 2012年	モリタ	A - 2	584	188	280	5,515	〃	2.99	土浦新治 ポンプ 1	
	救 急 車	ニッサン 2013年	茨城日産	高規格	564	190	270	3,325	ガソリン	3.49	土浦新治 救急 1	○
	査 察 広 報 車	トヨタ 1997年	カデッテ	—	452	169	162	1,515	〃	1.76	土浦新治 広報 1	

4. 消防車両使用経過年数

(単位：台)

種 別	年 数	合 計	1年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
			未満	～ 2年	～ 3年	～ 4年	～ 5年	～ 6年	～ 7年	～ 8年	～ 9年	～ 10年	～ 以上
合 計		76	1	1	3	0	3	2	6	7	4	6	43
消防本部	指 揮 車	1								1			
	水槽付ポンプ車	1											1
	普通ポンプ車	1						1					
	高規格救急車	1											1
	人員搬送車	1					1						
	連絡車	6					1		1			2	2
	資機材搬送車	1											1
土浦消防署 及び 南 分 署	指 揮 車	1											1
	水槽付ポンプ車	3								1			2
	普通ポンプ車	1										1	
	救助工作車	1									1		
	はしご車	1											1
	高規格救急車	3	1							1		1	
	査察広報車	2			1								1
	資材搬送車	1									1		
	小型救助艇	1											1
荒川沖消防署	水槽付ポンプ車	1											1
	普通ポンプ車	1			1								
	高規格救急車	1						1					
	査察広報車	1											1
神立消防署	化 学 車	1											1
	普通ポンプ車	1											1
	高規格救急車	1					1						
	査察広報車	1		1									
新治消防署	水槽付ポンプ車	1							1				
	普通ポンプ車	1								1			
	高規格救急車	1							1				
	査察広報車	1											1
消防団	普通ポンプ車	24			1				1	1		2	19
	小型動力ポンプ積載車	14							2	2	2		8

5. 消防本部・消防団ホース保有状況

消防本部

(単位：本)

所属 \ サイズ	50mm	65mm	40mm
土浦消防署	93	156	19
南分署	38	75	
荒川沖消防署	60	94	
神立消防署	76	51	
新治消防署	55	97	

消防団

(単位：本)

第1分団	65 mm	20
第2分団	〃	20
第3分団	〃	20
第4分団	〃	20
第5分団	〃	20
第6分団	〃	20
第11分団	〃	20
第12分団	〃	20
第13分団	〃	20
第14分団	〃	20
第15分団	〃	20
第16分団	〃	20
第17分団	〃	20
第21分団	〃	20
第22分団	〃	30
第23分団	〃	20
第24分団	〃	20
第26分団	〃	20
第27分団	〃	20
第28分団	〃	20

(単位：本)

第30分団	65 mm	24
第31分団	〃	10
第32分団	〃	18
第33分団	〃	27
第34分団	〃	15
第35分団	〃	7
第36分団	〃	10
第37分団	〃	11
第38分団	〃	10
第39分団	〃	12
第40分団	〃	11
第41分団	〃	10
第43分団	〃	10
第44分団	〃	10
第45分団	〃	20
第46分団	〃	11
第47分団	〃	11
第48分団	〃	10

6. 消防機器装備状況

種 別	区 分	計						
			本部	土浦 消防署	南分署	荒川沖 消防署	神立 消防署	新治 消防署
一般救助器具	かぎ付はしご	3		2			1	
	金属製ワイヤー梯子	1		1				
	救命索発射銃	2		2				
	三連梯子	14		6	1	2	3	2
	二連梯子	3	1			1	1	
	空気式救助マット	1		1				
	担架（平・バスケット型）	4		3		1		
	救助用縛帯	6		2		2	1	1
重量物排除用器具	油圧ジャッキ（テレスコピックラム）	2		2				
	油圧マルチツール	2				1	1	
	大型油圧スプレッダー	2		1				1
	可搬ウインチ（チルホール）	6		2		3		1
	チェーンブロック	1		1				
	マンホール救助器具	1		1				
	マット型空気ジャッキ	1		1				
	救助用支柱器具	1		1				
切断用器具	油圧切断機（ペダルカッター）	1		1				
	大型油圧切断機	2		1				1
	酸素溶断器	1		1				
	エンジンカッター	9		5	1	1	1	1
	チェーンソー	11		5	1	1	2	2
	鉄線カッター	17		8	1	2	3	3
	空気鋸（エアソー）	4		2		1	1	
破壊用器具	万能斧	18		10	1	2	2	3
	携帯用コンクリート破壊器具（ストライカー）	6		3		1	2	
	ハンマドリル	2		2				
	ハンマー	13		6	1	2	2	2
	削岩機	3		2		1		
呼吸保護用器具	空気呼吸器	64	17	22	4	7	7	7
	酸素呼吸器	4		4				
	防塵マスク	29		17		3	5	4
	空気ボンベ（大）	10		5		5		
	空気ボンベ（小）	181		95	12	32	19	23
	酸素ボンベ	128		47	21	20	21	19
	送排風機	1		1				
検知測定用器具	有毒ガス測定器	8		4	1	1	1	1
	放射線測定器	17		17				
	可燃性ガス測定器	8		4	1	1	1	1
	酸素濃度測定器	8		4	1	1	1	1

種 別	区 分	計	本部	土浦 消防署	南分署	荒川沖 消防署	神立 消防署	新治 消防署
用具	除染シャワー	1		1				
	除染テント	1		1				
作業用 保護具	耐電衣	2		2				
	耐電手袋	9		4			2	3
	耐電ズボン	2		2				
	耐電長靴	3		3				
	携帯警報機	50		25	4	7	7	7
	耐熱服	4		2			2	
	陽圧式化学防護服	5		5				
	化学防護服	3		3				
	水難救 助用具	救命胴衣	90		65	4	5	11
救命浮環		15		10			2	3
救命ボート（ゴム・アルミ）		3		3				
船外機		2		2				
水中スピーカー		1		1				
潜水器具		8		8				
高度救 助器具	ダイヤモンドチェーンソー	1		1				
	画像探索機Ⅰ型	1		1				
	画像探索機Ⅱ型	1		1				
	地中音響探知機	1		1				
	地震警報装置（フレックル）	1		1				
	夜間暗視装置（ナイトビジョン）	1		1				
	レスキューレーダー	1		1				
	二酸化炭素・アンモニア濃度測定装置	1		1				
緊急消 防機材 支援資 材	エアータント	2	1	1				
	気化式冷風機	1		1				
	ポータブルヒーター	1		1				
	リチウムイオン蓄電池	1		1				
現場活 動補 助器具	投光機	16		8	1	2	3	2
	携帯拡声器	16		8	1	2	3	2
	応急処置セット	8		3	1	2		2
	携帯投光機	2		2				
	車両移動器具	1		1				
	発電機	22	5	8	1	3	3	2
	携帯無線機（車載無線機）	33	7	11	3	4	4	4
	携帯無線機（携帯無線機）	41	11	12	3	5	5	5
	移動局無線装置（可搬・卓上型）	12	4	1	1	2	2	2
	携帯無線機（署活系）	80	20	26	7	9	9	9
器 具	緩降機	2		2				
	エアークラムノズル	13		6	1	2	2	2
	可搬式小型消防ポンプ	4		1		1		2
	ジェットシューター	25		4		3	5	13
	可搬式消火器具	1		1				

7. 消防車両使用状況

所属	車種	種別	管内		管外		演習	その他	救急	総計	ポンプ, 梯子使用状況	
			火掛	否	火掛	否					時間(分)	度数
消 防 本 部	指揮車 本部指揮2	度数(回)						97		97		
		秆数(km)						4,999		4,999		
		燃料(ℓ)						441.0		441.0		
	水槽付ポンプ車 (予) 本部タンク1	度数(回)					26	81		107	1380	30
		秆数(km)					36	726		762		
		燃料(ℓ)					109.0	229.0		338.0		
	ポンプ車 (予) 本部ポンプ1	度数			1		34	157		192	645	31
		秆数			19		295	368		682		
		燃料			2.0		182.1	100.0		284.1		
	救急車 (予) 本部救急1	度数(回)					7	118	291	416		
		秆数(km)					75	1,022	5,004	6,101		
		燃料(ℓ)					22.0	378.0	1331.0	1,731.0		
	人員搬送車 本部輸送1	度数						69		69		
		秆数						2,659		2,659		
		燃料						421.0		421.0		
	連絡車 プリウス	度数(回)						496		496		
		秆数(km)						13,158		13,158		
		燃料(ℓ)						705.2		705.2		
	連絡車 アクティアー	度数(回)						690		690		
		秆数(km)						6,979		6,979		
		燃料(ℓ)						587.3		587.3		
	連絡車 ニッサンバン	度数(回)						369		369		
		秆数(km)						10,461		10,461		
		燃料(ℓ)						911.5		911.5		
	連絡車 ステップワゴン	度数(回)						383		383		
		秆数(km)						6,007		6,007		
		燃料(ℓ)						763.2		763.2		
	連絡車 バネット	度数(回)						568		568		
		秆数(km)						7,843		7,843		
		燃料(ℓ)						850.5		850.5		
連絡車 ハイエース	度数(回)						335		335			
	秆数(km)						7,403		7,403			
	燃料(ℓ)						1,080.0		1,080.0			
資材 搬送車 本部搬送1	度数(回)						182		182			
	秆数(km)						2,048		2,048			
	燃料(ℓ)						248.1		248.1			

所属	車種	種別	管内		管外		演習	その他	救急	総計	ポンプ, 梯子使用状況	
			火掛	否	火掛	否					時間(分)	度数
土浦消防署	水槽付 ポンプ車 土浦タンク1	度数(回)	25	6			110	450		591	2435	56
		料数(km)	300	40			1,649	4,472		6,461		
		燃料(ℓ)	235.5	15.0			557.0	1,522.5		2,330.0		
	水槽付 ポンプ車 土浦タンク2	度数(回)	19	5			65	107		196	2260	54
		料数(km)	269	49			1,118	1,088		2,524		
		燃料(ℓ)	254.0	15.0			575.0	655.5		1,499.5		
	ポンプ車 土浦ポンプ1	度数(回)	13	5			69	1,068		1,155	1665	56
		料数(km)	111	41			971	9,087		10,210		
		燃料(ℓ)	49.5	11.5			276.0	2,022.4		2,359.4		
	梯子車 土浦梯子1	度数(回)	0	0			33	20		53	梯子 1992	58
		料数(km)	0	0			313	455		768		
		燃料(ℓ)	0.0	0.0			688.0	264.0		952.0		
	救助 工作車 土浦救助1	度数(回)	21	0			37	398		456	照明 1510 ウインチ 1180 クレーン 1525	183 181 187
		料数(km)	237	0			558	3,617		4,412		
		燃料(ℓ)	118.0	0.0			168.0	176.0		462.0		
	救急車 土浦救急1	度数(回)	9	0			11	110	1,893	2,023		
		料数(km)	146	0			335	1,060	32,204	33,745		
		燃料(ℓ)	37.0	0.0			60.0	284.0	7,776.5	8,157.5		
	救急車 土浦救急2	度数(回)	5	0			7	68	894	974		
		料数(km)	62	0			114	779	15,885	16,840		
		燃料(ℓ)	18.0	0.0			17.5	211.5	3,827.0	4,074.0		
	指揮車 本部指揮1	度数(回)	31				10	263		304		
		料数(km)	386				114	3,508		4,008		
		燃料(ℓ)	130.5				28.0	1029.2		1,187.7		
査察 広報車 土浦広報1	度数(回)	0				1	114		115			
	料数(km)	0				7	7,904		7,911			
	燃料(ℓ)	0.0				2.0	773.1		775.1			
資材 搬送車 土浦搬送1	度数(回)					4	27		31	クレーン 0	0	
	料数(km)					38	208		246			
	燃料(ℓ)					18.0	92.0		110.0			
小型 救助艇 土浦消防艇1	度数(回)					11	3		14	可搬ポンプ 0	0	
	時間(H)					16:05	3:45		19:50			
	燃料(ℓ)					136.0	52.0		188.0			
土浦消防署南分署	水槽付 ポンプ車 南タンク1	度数(回)	9	42			38	399		488	1060	15
		料数(km)	74	390			539	2,796		3,799		
		燃料(ℓ)	68.0	127.0			147.5	1010.9		1,353.4		
	救急車 南救急1	度数(回)	4				12	220	1,283	1,519		
		料数(km)	24				156	1627	18,430	20,237		
		燃料(ℓ)	19.0				34.0	460.5	4,636.0	5,150		
	査察 広報車 南広報1	度数(回)					2	154		156		
		料数(km)					16	1,973		1,989		
		燃料(ℓ)					1.4	182.8		184.2		

所属	車種	種別	管内		管外		演習	その他	救急	総計	ポンプ、梯子使用状況	
			火掛	否	火掛	否					時間(分)	度数
荒川沖消防署	水槽付 ポンプ車 荒川沖タンク1	度数(回)	2	1			7	730		740	430	13
		秆数(km)	10	17			90	5,931		6,048		
		燃料(ℓ)	10.0	15.0			730.0	2,039.0		2,794.0		
	ポンプ車 荒川沖ポンプ1	度数	1	2			12	101		116	980	29
		秆数	8	29			6	584		627		
		燃料	20.0	6.0			36.0	331.9		393.9		
	救急車 荒川沖救急1	度数	0				1	304	1,233	1,538		
		秆数	0				22	2,250	18,641	20,913		
		燃料	0.0				7.0	788.1	5,797.8	6,592.9		
	査察 広報車 荒川沖広報1	度数		1				196		197		
		秆数		14				4,195		4,209		
		燃料		3.0				395.1		398.1		
神立消防署	化学車 神立化学1	度数	14	12			31	706		763	3300	48
		秆数	153	133			363	6,956		7,605		
		燃料	124.0	37.0			149.0	2,222.5		2,532.5		
	ポンプ車 神立ポンプ1	度数	8	4			10	107		129	1530	32
		秆数	58	39			6	971		1,074		
		燃料	66.5	10.0			27.5	250.0		354.0		
	救急車 神立救急1	度数						231	1,097	1,328		
		秆数						1,970	20,461	22,431		
		燃料						572.5	4,602.0	5,174.5		
	査察 広報車 神立広報1	度数						157		157		
		秆数						3,060		3,060		
		燃料						326.5		326.5		
新治消防署	水槽付 ポンプ車 新治タンク1	度数	12	1			32	519		564	1495	42
		秆数	131	13			291	6,320		6,755		
		燃料	91.5	3.0			106.5	1,931.5		2,132.5		
	ポンプ車 新治ポンプ1	度数	8				13	68		89	1050	19
		秆数	85				38	961		1,084		
		燃料	47.0				31.1	285.1		363.2		
	救急車 新治救急1	度数					3		779	782		
		秆数					53		14,856	14,909		
		燃料					13.0		3,969.6	3,982.6		
	査察 広報車 新治広報1	度数						232		232		
		秆数						4,900		4,900		
		燃料						426.2		426.2		

8. 水防用資器材備蓄一覧表

水防倉庫所在地 川口二丁目
桜町四丁目

品名	単位	数量	品名	単位	数量
掛 矢	丁	16	土 の う 袋	枚	36,300
た こ	丁	5	ビニールロープ	玉	9
な た	丁	12	フルコンシート	枚	10
竹 と げ 鎌	丁	3	ビニールシート	枚	20
目 通 し	丁	10	木 杭 (5m)	本	10
エ ン ピ	丁	6	木 杭 (3m)	本	90
ト ウ グ ワ	丁	5	金 杭 (1.5m)	本	428
丸 ス コ ッ プ	丁	68	金 杭 (1.2m)	本	325
ツ ル ハ シ	丁	3	アルミボート	艇	2
草 刈 鎌	丁	19	大 ハ ン マ ー	丁	6
手 鎌	丁	5	オ ー ガ	機	1
の こ ぎ り 鎌	丁	7	水 中 ポ ン プ	台	5
お の	丁	3	ポ ン プ	台	4
の こ ぎ り	丁	7	救 命 胴 衣	着	100
ハ ン マ ー	丁	9	草 刈 機	台	1
ペ ン チ	丁	2	可 搬 式 草 刈 機	台	2
一 輪 車	台	15	ア サ ロ ー プ (6m×100m)	玉	7
角 ス コ ッ プ	丁	36	ヘルメット	個	100
穴あきスコップ	丁	24	番 線 切	丁	4
炊 出 釜	セット	1	鉄 線	kg	30